

(ディベート)

身に付けさせたい力として、「情報収集力」、「情報分析力」、「論理的思考力」、「批判的思考力」、「チーム力」を掲げ活動を行った。

ディベートの位置づけとしては、その後の活動である「論ずる」のための基礎力を培うものとしている。そのため、生徒には今後の活動を提示しながら、身に付けさせたい力と授業の位置づけを理解させたくうえで活動を実施した。

生徒の実態としては、「ディベートという言葉聞いたことがある」という生徒は、10名程度（全体の30%）、「ディベートをやったことがある」という生徒は数人（全体の10%以下）であった。そのため、ディベートに関するインプットも行いながら授業を進行していった。また、本活動は、5人×7班構成のグループ活動で実施した。

今までの学習の反省も生かし、評価項目に目を当てる時間を度々設け、学習の狙いを理解したうえで学習させた。ただの調べ学習とならないように、授業構成に注力を注ぎ、より充実した探究学習となるように構成を考えた。特に、自走という名の放任にならないように工夫した。

ディベート評価シート

発表チーム _____ 評価者 _____

【評価】

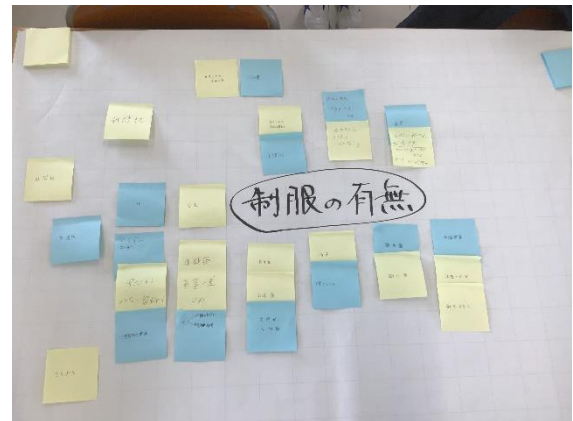
○5点満点とし、5段階評価で記入してください。

評価項目	肯定 () 班	否定 () 班
資料やデータなどを図や表、グラフ等で提示しながら、視覚的に表現できている		
根拠に基づいて話を展開できている。 (自身の感覚や勘、憶測ではない。)		
相手チームの立論を理解し、筋道の通った質疑応答・反駁ができている。		
チームとして話し合い、受け答えができている。		
合計点		

○各チームの「良かった点」、「こうすればもっと良くなる点」を記入してください。

チーム名	チーム名
○良かった点	○良かった点
○こうすればもっと良くなる点	○こうすればもっと良くなる点

評価項目



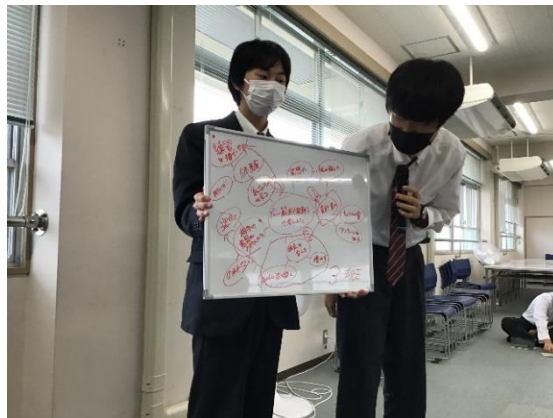
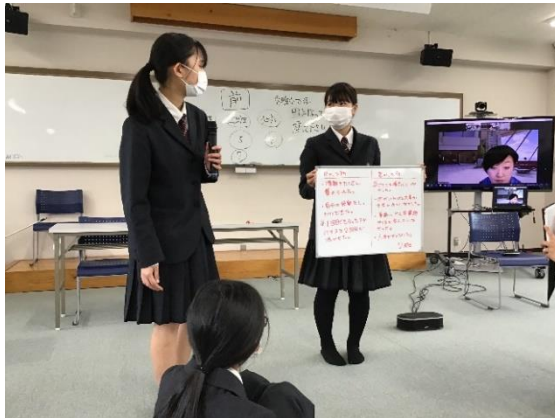
活動の様子

テーマを「日本の教育政策として、制服を廃止すべきである」としてディベート大会を行った。評価者として、黒潮町教育長 畦地和也 氏（運営指導委員）、合同会社 NOKs Labo 代表 山崎直子 氏（コンソーシアム委員）、高知新聞社記者 河本真澄 氏をお迎えし、指導・助言をいただいた。成果・課題共にたくさん得られた活動となった。



ディベート大会の様子

ディベートの振り返りを、評価者として参加していただいた山崎直子 氏（パーソナルコーチの資格を有す）にオンラインでファシリテートしていただき実施した。振り返りを、「過去否定」、「過去肯定・未来肯定」に分け、反省ばかりを出し合う振り返りから、「もっと良くしていくためには」といった視点を交えた振り返りを実施した。班でディスカッションする時間を多く設け、授業者から具体的な指示を与えることで、抽象的で他人事の振り返りではなく、具体的で自分事の振り返りとなり、効果的な振り返りを行うことができていた。



振り返りの様子

（論ずる①）

ディベート後の計画では、ディベートで身に付けた理的思考の基礎等を活用し、仕事×社会という視点で、「自分がやろうとしている仕事は 10 年後どう変化しているのか、もしくは変化していないのかを根拠を交えて論じなさい」というテーマで論じさせる予定であった。しかしディベート後、生徒から、「悔しい」、「もっとやればよかった」といった声が多数あり、「制服の是非」について再検討することも兼ねて、「論ずる」のテーマとして設定した。

「論ずる」のインプットとして国語科の先生にポイント等を説明していただいた。それらを参考に個人で論ずる活動を実施した。論理的に文章を書くということに慣れておらず、主観的な文章が多く、活動の結びつきが弱いと感じた。そこで、文章の構造化シートを作成させ、文章構造を決定してから、論ずる活動を行わせた。

その後、個別に担当教員と面談形式で振り返りを行い、何ができていて何ができていないのか、どうすればできるようになるのかを対話を通して確認した。



国語科からのインプットの様子

(ワールドカフェ)

本活動も、年度当初の計画にはなく、生徒の実態に応じて変更したものの1つである。

「未来の仕事について考える」をテーマに、10名を超える社会人の方に参加していただき実施した。新型コロナウイルス感染症の影響で、本来であれば対面形式での実施であったが、オンラインに切り替えて行った。ほぼ全員の生徒が、オンラインでのやり取りは初めてということもあり、始めはかなり緊張していたが、時間が経つにつれ活発にディスカッションを行っていた。しかしながら、課題も多くある活動にもなった。具体的には、「大人に教えてもらう」という意識が強く、自身の思いを伝えることができない生徒も若干名いた。また、インタビュー形式になりがちであり、議論を深めることはできていなかった。生徒からは、またやってみたいという声や、もっとテーマについて情報収集してから参加すればよかったといった肯定的な振り返りも見られ、総合的に考えると、いい活動であったと言える。



ワールドカフェのオンライン画面

(論ずる②)

「自分がやろうとしている仕事は10年後どう変化しているのか、もしくは変化していないのかを根拠を交えて論じなさい」というテーマで論ずる活動の2回目を実施した。

本活動の位置づけとしては、年間テーマである「人が働くということ」に関する集合知の形成となっている。論ずる①の活動の振り返りを念頭に入れながら、前回の自分を超越るといったイメージで活動させた。学年としての課題は、生徒がイメージしていることをいかに論理的に表現させるかであった。文章を書く前に構造化シートを書かせ、書く生徒がどのような視点から論じていきたいか、根拠や情報源をどう記していくかを面談でより具体化、明確化させ、論ずる活動を行わせた。多くの生徒が、論ずる①よりも成長した姿が見られた。

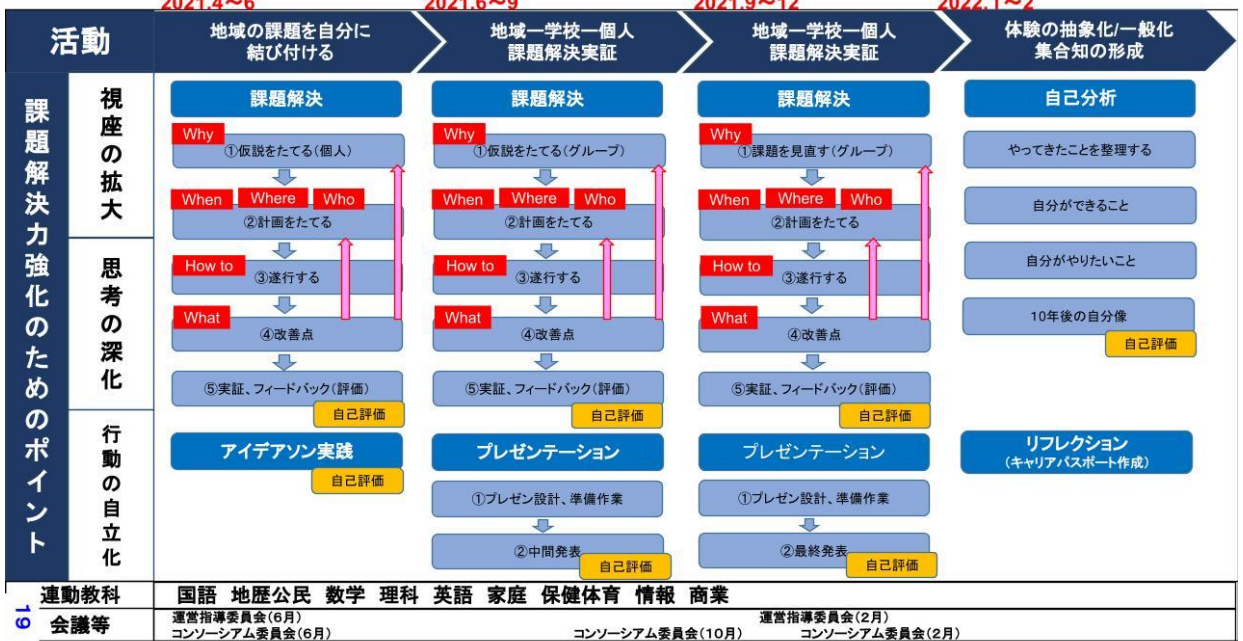
この2回の論ずる活動を3年間ポートフォリオとして残していき、進路研究等に役立てていきたい。キャリア教育の一環にもなり、充実した活動となった。

(2)「総合的な探究の時間」2年生の取組について

ア 概要

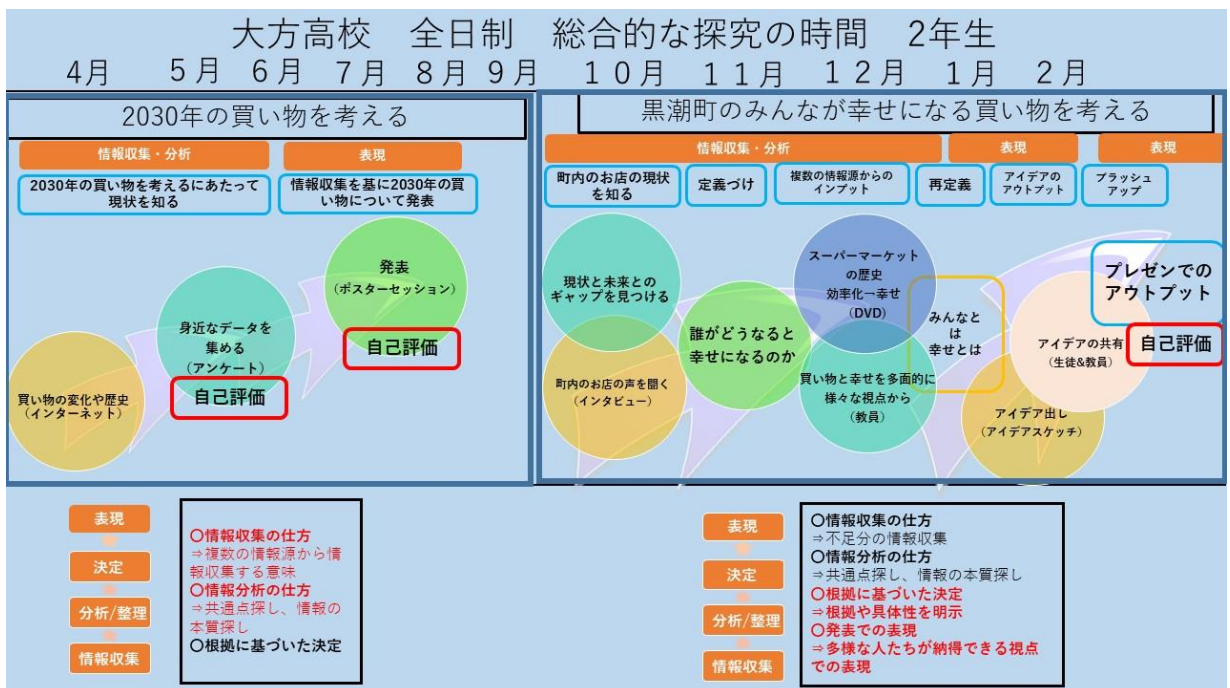
2年生は、探究力の基礎として、「情報収集力」、「情報分析力」、「判断・決定力」、「論理的思考力」、「表現力」の5つの力を身に付けることを目標に活動を行った。年度当初に年間計画、(OODAに基づいた)ルーブリック評価を提示し、1年間の見通しをもたせ、身に付けさせたい力の共有を行い授業展開をした。年間を通して、「買い物をデザインする」をテーマに、「2030年の買い物」、「黒潮町のみんなが幸せになる買い物」という切り口で探究活動を行った。以下に年度当初の活動のイメージ図を示す。

総合的な探究の時間の2年生の活動のイメージ(探究力の向上と実践力の向上)



高知大学川村晶子客員准教授作成のシートを活用

当初は上図の年間計画で実施する予定であったが、生徒の実情に合わせて、柔軟に変更を行うこととした。探究力の基礎となる情報収集力・分析力・表現力の基礎が十分でないことから、基礎の定着を図れるよう計画を練り直し、下図のとおり授業展開した。



イ 生徒観

2年生は、他の学年よりも全体的に学力が高く、素直で理解も早い生徒が多い。一方で、男女間でのコミュニケーションが苦手な生徒が多く、素直ではあるが自分で考えて行動するよりも指示を待っているということも多い。リーダー性を発揮する生徒も少なく、話し合い活動やグループ活動では人任せになることも多い。

ウ 活動報告

活動は、下図のOODA ループに基づいたルーブリック評価を生徒に示し進めていった。

観点/レベル	1	2	3	4	5
到達レベル			規準	到達目標	
観察および情報収集力	情報収集ができておらず、自身の憶測や予想のみである。	情報収集量が少なく、一面的である。裏付けができておらず正確性に欠ける。	情報収集量は少ないが、裏付けを行い、正確性の高い情報を収集できている。	多角的な視点を持ち、複数のデータの収集を行っている。また、正確性も高く収集源も明示している。	多角的な視点を持ち、複数のデータの収集を行い、過程や根拠を明確化している。また、正確性も高く収集源も明示している。
分析力	情報の分析ができておらず、根拠がない情報があることにも気づけない。	情報の比較分析が甘く、情報の羅列になっている。主観性が強く根拠が弱い。説得力に欠ける内容である。	情報の比較分析が一定できており、根拠を持って思考できている。思考に関しては、論理的思考にとどまり、批判的思考は行っていない。	情報の比較分析が一定できている。根拠を持って、論理的・批判的に思考できている。	情報の比較分析が一定できている。根拠を持って、論理的・批判的に思考でき、的確な言葉でアウトプットできている。
判断、決定力	根拠や具体性がない。主観的であり、思考が浅い。実現に向けたプロセスも漠然としており実現性が低い。	根拠が弱く具体性に欠ける。インプットや予測との結びつきが弱く、主観的である。実現に向けたプロセスも自身の考えのみで実現可能かは不透明である。	根拠や具体性が一定ある。社会に与える影響が主観的で、社会との結びつきが少し弱い。実現に向けたプロセスに具体性はあがるが、偏りがある。	根拠や具体性が一定あり、視座を高めて社会に与える影響を考ることができている。実現に向けたプロセスを多角的に考えることはできている。	根拠や具体性があり、社会に与える影響が根拠をもって明示できている。また、実現に向けたプロセスも細部まで考えられており、実現性が高い。
表現力	他者の方を借りないとプレゼン資料が作れない。他人よがりでの発表が自分事になっていない。	探究した内容をアウトプットできておらず、本質や過程が聞き手に伝わっていない。	何を伝えたいのかが根柢理解できるが、伝え方が情報の羅列になっている。	聞き手側に立ったストーリー展開、手法の選択が出来る。多様な人たちが納得できる視点で表現している。	インプット・予測・アウトプットに強い結びつきがあり、それをストーリー展開、的確な言葉の選択、効果的な表現ができている。

OODA ループに基づいたルーブリック評価

<単元1 2030年の買い物を考える>

本単元では「買い物をデザインする」というテーマで、「自分×買い物」という切り口から「情報収集力」、「分析力」、「表現力」の基礎を養うために、2030年の買い物がどう変化しているのかに対して、根拠をもって2030年の買い物を考え、表現する授業を実施した。

まずは、現時点で誰がどのようなことに困っているかという視点からスタートした。当初は、自分たちの身近なお店からインターネットを使って情報収集を行った。複数の情報源からの情報収集をするため、次第に方法をアンケート・インタビューと増やしていった。そして、収集した情報から2030年の買い物を考え、ポスターを使って発表を行った。



活動の様子



発表の様子

実施後の課題としては以下のものがあげられた。

- ・インターネットによる情報収集では、検索結果の上位サイトしか見ていない。
- ・収集した情報に対して疑問や批判的な考えを持っていない。
- ・アンケートを実施したが、手段が目的になってしまい、質問項目に意図がなかったり、2030年の買い物を考えるにあたっての情報といえるものではなかったりした。
- ・アンケートの目的が明確になっていなかったことで、質問項目につながりがなかった。
- ・発表を実施したが、根拠のない考えが多かった（学習したことが結びついていない）。

単元を振り返ると、当初にループリック評価を生徒に見せ、目指すべき姿を伝えていたが、生徒自身が具体化できておらず、どうなればよいか、何をすればよいか分からない状態になっていた。その結果、教員からの指示待ちになったり、何のためにこの活動を行っているのか分からなかったりという状態になってしまっていた。また、教員間でも活動の意図等の共有が十分でなかった。そのため、教員が生徒に対して効果的な声かけを行うことができなかった。また、テーマについて考えることがゴールとなっていた。

学年団の教員からは、「ゴールが見えない」、「テーマに生徒が飽きてしまっている」、「同じことの繰り返し」、「成長が感じられない」との声もあった。このことから、まず学年団の教員と共有する時間が必要であると再認識した。今は総合担当が学年の教員に授業について下ろしている状況であるが、学年団で身に付けさせたい力の共通認識をもち、そのためにどういうことをしなければならぬのかを考えることが重要だと感じた。

〈単元2 黒潮町のみんなが幸せになる買い物を考える〉

本単元は、「地域×買い物」という切り口から活動を行った。「情報収集力」、「分析力」、「表現力」の向上と、これから行う黒潮町の課題解決学習の土台となるよう授業を展開した。

ここでは、実際に情報収集からアイデア出しを行い、アイデアの発表会を実施した。前期の反省から、「黒潮町のみんなが幸せになる買い物を考える」がゴールではなく、身に付けさせたい力を身に付けることがゴールということを経時生徒に周知を行った。また、学年団の教員とも密に共有を図るよう取り組んだ。

活動内容は以下のとおりである。

- ・町内にあるお店 14 か所をインタビュー（お店の人の声や現状を知るため）
- ・幸せの定義づけ
- ・ビデオからのインプット（スーパーマーケットの歴史）

- ・教員 8 名から生徒へ「幸せになる買い物」を考えるにあたってのインプット
- ・アイデアスケッチの作成・アイデア磨き（冬休み～1 月）
- ・社会人との対話でのアイデア磨き（2 月）
- ・アイデア発表（2 月）



インタビューの様子

アイデアスケッチ

アイデアを一言であらわす（タイトル）
オーダーメイドファッションアプリ ～自分の理想を現実に！～

どんなアイデアかわかりやすく（絵や言葉を組み合わせて）
もっとOOだったらいのになあ...
このOOのこんなものが欲しい！！が可能になりそう。
アプリで変更
自分の理想の服に
※服を見ていた時に自分の理想の服がなくて購入しないことがあった。この悩みが解消できる！

いつ？（時間帯）
アプリ使用なら24時間営業！

どこで？（場所）
全国

誰が幸せになる？
・こだわりの商品を売りたいと考えている企業。
・自分のこだわりの服を作りたいと思っている人。
・アプリをインストールした人全員。
・iPhone等が使えない人。

どかがポイント？（他のサービスと違うところ・オリジナリティ）
・服は好きで購入を考えているが自分の納得した商品に出会えない
・人と同じ商品ではなくオリジナリティが生まれる
・個別のニーズを解決することができる。
・ほんとにいいものを売りたい人の想いも満たすことができる。

実現性（どうすれば実現できるか）
・アプリを開発する。
・考え方に賛同してくれる企業・店を見つける。

アイデアスケッチ

アイデアを一言であらわす（タイトル）
買い物ポイントで買い物をしよう！

どんなアイデアかわかりやすく（絵や言葉を組み合わせて）
①買い物をしてポイント貯める。
②一定のポイントが貯まったら使う。
（ポイントは買い物の支払い、黒潮町の特産品を貰える券や黒潮町内の宿に泊まれる券等の引き換えに使える）
① ②
※1ポイント1円分

いつ？（時間帯）
いつでも

どこで？（場所）
黒潮町のお店全域(出来るだけ)
高知県内のお店(導入できる所だけ)

誰が幸せになる？
・地元で販売する人
・商品を買う人
・高齢者の方

どかがポイント？（他のサービスと違うところ・オリジナリティ）
・カードやスマホではないためポケットや財布から取り出す手間がない。
・ボタンを押すことでポイントが文字で表示され、音声も流れるため視覚的、聴覚的に分かりやすい。
・地域外でもポイントが倍になる日はあるが、地域内では更に1.5倍になる。

実現性(どうすれば実現できるか、どんな技術があれば、どうなれば実現できるか)。
・ICチップを内蔵する。
・音声は人間または合成音声を用意する。
・ポイントを読み取る機械。

2 月 1 日時点の生徒のアイデアスケッチの例



社会人との対話でのアイデア磨きの様子



アイデア発表の様子

アイデアスケッチ

アイデアを一言であらわす(タイトル) **高齢者のための買い物**

私に考えている黒潮町のみんなが幸せになる買い物は **高齢者が健康になり買い物ができることです**

どんなアイデアかわかりやすく(絵や言葉を組み合わせて)
毎日1000歩、歩いたら15日で1000円

いつ?(時間帯)
夕方や朝方

どこ?(場所)
外の散歩ができる場所

誰が幸せになる?
高齢者はもちろん若い人も健康になって病気にかかりにくくなり幸せになる

どこがポイント?(他のサービスと違うところ・オリジナリティ)
毎日歩くことで健康になる
削減できた医療費を他の活動で使える
小売店にもお客さんが来る
年間でポイント1位の人に靴をプレゼント
実現性(どうすれば実現できるか)
振るだけで反応しないように正確な万歩計を作る

発表用アイデアスケッチ

アイデアスケッチ

アイデアを一言であらわす (タイトル)
体が不自由な人のための店

私の考えている黒潮町のみんなが幸せになる買い物は
体が不自由な人も不自由なく暮らせること になること

どんなアイデアかわかりやすく (絵や言葉を組み合わせて)
 車いすの人が入る店、いすにのぼる人、エレベーター、エレベーターを押し、店員をよぶ、
 (注) 車いすの人でとれる物には、車いすくどこにある、押しだすでとれる物か、(色を区別する)
 (注) 全7月の月曜のサービスの日がある。
 (注) 全7月の月曜のサービスの日がある。
 (注) 全7月の月曜のサービスの日がある。

いつ? (時間帯)
 朝6時 ~ 夜9時まで

どこで? (場所)
 体が不自由な人が97%住んでいると、黒潮町 → 老人ホームの近く

誰が幸せになる?
 ・買い物をするときに困っていた人
 ・最近、買い物で自分アてきな人が、た人。

どこがポイント? (他のサービスと違うところ・オリジナリティ)
 ・障害のある、高齢の人のためのサービス。
 ・障害のある人がいるからサポートしてやる。障害のある人も働ける。
 ・サービスを行っている家をターゲットにして、買い物を楽しんでほしい。
 ・自販機は、よくした理由は、物をとるときにくらべたりしないうるため

実現性 (どうすれば実現できるか)
 コスト、スペース、点字マークとカラー、自販機が、いふシステム

点字マークを店内に置いている
 ↳ 車いすにはいい (マーク)
 ↳ でも視覚障害のためには、色でマーク

アイデアスケッチ

アイデアを一言であらわす (タイトル)
まるごとくろしおワゴン

私の考えている黒潮町のみんなが幸せになる買い物は
買い物「苦」でなくなる こと

どんなアイデアかわかりやすく (絵や言葉を組み合わせて)
ワゴン車販売×代行サービス

いつ? (時間帯)
 昼間夕方頃 (仕入れの関係含め)

どこで? (場所)
 黒潮町 (山奥中心)

黒潮町の誰が幸せになる?
 ・家事、育児が忙しくなかなか買い物に行けない人
 ・車に乗ることができない人

どこがポイント? (他のサービスと違うところ・オリジナリティ)
 ●提供しているスーパー以外の店の商品も **リクエスト・代行が可能**
 ●国産や黒潮産のものを多く取り扱う

実現性 (どうすれば実現できるか)
 ◎ワゴン車と運転手の用意
 ◎巡回ルートを決める

アイデアスケッチ

アイデアを一言であらわす
見るだけの店舗

私の考えている黒潮町のみんなが幸せになる買い物は **失敗しない買い物ができること**

どんなアイデアかわかりやすく (絵や言葉を組み合わせて)
 見るだけの店舗、お店で実物を見る人、スマホで注文する、自宅に届く

いつ? (時間帯)
 10:00 ~ 21:00

どこで? (場所)
 黒潮町

黒潮町の誰が幸せになる?
 ・イメージ通りのものが買える
 ・手ぶらで帰れる
 ・店舗に在庫を置かなくて良い
 ・返品交換が少なくなる

どこがポイント? (他のサービスと違うところ・オリジナリティ)
 店舗側のポイント 買う側のポイント
 ・店舗に在庫を置かなくて良い イメージ通りのものが買える
 ・返品交換が少なくなる 手ぶらで帰れる

実現性 (どうすれば実現できるか)
 実現しているところがあるから実現は可能

発表用アイデアスケッチ

アイデアスケッチ

アイデアを一言であらわす (タイトル)

和気あいあいのリバス

どんなアイデアが分かりやすく 絵と文字で表現

黒潮町で運送
の
タクシー会社と
提携する
のんびり
満足度を
上げてもらう

人を乗せて
スーパーや
郵便局へ
行く
ハイエースに変更
→ 17:00まで

大人 200円
子ども 100円
定期券あり

どこ? (場所) で

西大市 → 入野 方面
佐賀 → 入野 方面 のまち

いつ? (時間帯)

朝 ~ 夕方
(10:00 ~ 17:00)

オリジナリティ (どこがポイント? 他のサービスと違うところ)

車の中でコミュニケーションが取れる
予約制で並べたい時刻を自由に決められる
車イスも乗れる

黒潮町での時間を短縮して
出発する。
箱館 黒潮町 全線
行き来は自由

実現性

(どうすれば実現できるか、どんな技術があれば、どうなれば実現できるか)

町に相談

誰が幸せになる?

高齢者
車や運転できない人
遠くに住んでいる人



アイデアスケッチ

アイデアを一言であらわす (タイトル)

買い物あいのリバス

私の考えている黒潮町のみんなが幸せになる買い物は

遠くに住んでいる人や、車を持っていない高齢者の方が自由に買い物に行けるようになること

どんなアイデアがわかりやすく (絵や言葉を組み合わせて)

大人200円 子ども100円 定期券5000円



いつ? (時間帯)

朝10:00~夕方5:00

どこで? (場所)

黒潮町全体
(西:御坊畑 東:佐賀 北:鏡川) くらい

どこがポイント? (他のサービスと違うところ・オリジナリティ)

- ・車の中でコミュニケーションが取れる
- 今ハイエースを満タンにするのに約13,300円かかる
- 電気自動車を使う(1回の充電で180kmほど走行可能 コストは1/2に抑えられる)
- ・基本的に予約制で目印となるところに来る
- ・曜日ごとで行く地域を変える

実現性 (どうすれば実現できるか)

- ・タクシー会社と連携
- ・町との相談

黒潮町の誰が幸せになる?

スーパーから家が遠い人
車を所有していない人
運転のできない人

アイデアスケッチの変容の例

アイデアスケッチ

お年寄りのための健康ポイント



黒潮町の課題として津波や地震が来た時にお年寄りが逃げるのをあきらめていることが課題と思い、どうすればお年寄りが健康で逃げる体力+避難経路を覚えてもらうには、歩いたり逃げトレを活用すれば改善できると思ってこの案を提案します。それにこれはスマホに入っているポイントカードのような感じになりたいと考えております。そうすると会計するときにポイントカードを探す手間もはぶけて後ろで待っている人もイライラすることなく会計をスムーズにできると思います。

実際に千葉県では市での共有のポイントがあり歩くとポイントがもらえたりしています。Tカードなどにポイントがたまる仕組みにて1%~3%ぐらいを市が負担する仕組みにしたいです。

一日中

黒潮町

お年寄り
黒潮町
店



アイデアスケッチ

お年寄りのための健康ポイント

私の考えている黒潮町みんなが幸せになる買い物は

お年寄りがいつまでも健康で生活出来るように

なること



黒潮町の課題解決もバッチリ！
お年寄りの体力作り&避難経路の認知
お年寄りの会計がスムーズに！
店側も顧客を巻き込める

実際に千葉県では市での共有のポイントがあり歩くとポイントがもらえたりしています。Tカードなどにポイントがたまる仕組みにて1%~3%ぐらいを市が負担する仕組みにしたいです。

一日中

黒潮町

お年寄りが健康になり長生きもできる。
黒潮町の課題である避難時にお年寄りが避難してくれやすくなる。
店側も顧客の囲い込みなどができる。

アイデアスケッチの変容の例

この単元では、前回の反省から毎時身に付けさせたい力を明示して授業展開をしてきた。また、前回できていなかった外部との交流も実施することができたことにより、思考の幅や視点を広げさせることができた。しかし、前期からの学びが結びついていないと感じるときもあり、振り返りが十分でなかったために、生徒の活動の中で前期と同じく情報収集・分析が不十分である点も見られた。やはり、充実した振り返りが必要であると再認識した。良いところをより良くするには、課題を改善するためにはどうすればよいかを生徒自身にしっかりと認知させることが必要であると感じた。

また、総合的な探究の時間内だけで探究をさせるだけでなく、授業外での時間を有効に活用して探究（情報収集など）をさせたかったが、授業外で活動しようとする生徒はごく少数であり活動時間が十分でなかった。

幸せの定義づけについては、時間が少なかったために幸せの定義が不十分であり、黒潮町の誰がどのようになると幸せなのかを考えるとできていないアイデアが多かった。生徒たちが自主的に取り組むことができるよう、探究を楽しませるにはどのような工夫をすればよいのかを常に考えていかなければと思う。

教員間での情報共有に関しては前期からの課題でもあったが、後期でも共有会を開く時間がなかなかとれなかったために、作成した資料を渡しての共有が多かった。そのため、意図が十分に伝わっていない場面も見られた。

発表会では、評価者として参加していただいた川村晶子 氏から「発表する相手の人に納得してもらい、人に動いてもらうためにはどうすればよいか」という助言をいただき、多くの生徒がこのアイデアスケッチではまだまだ十分でないということに気づいた様子であった。

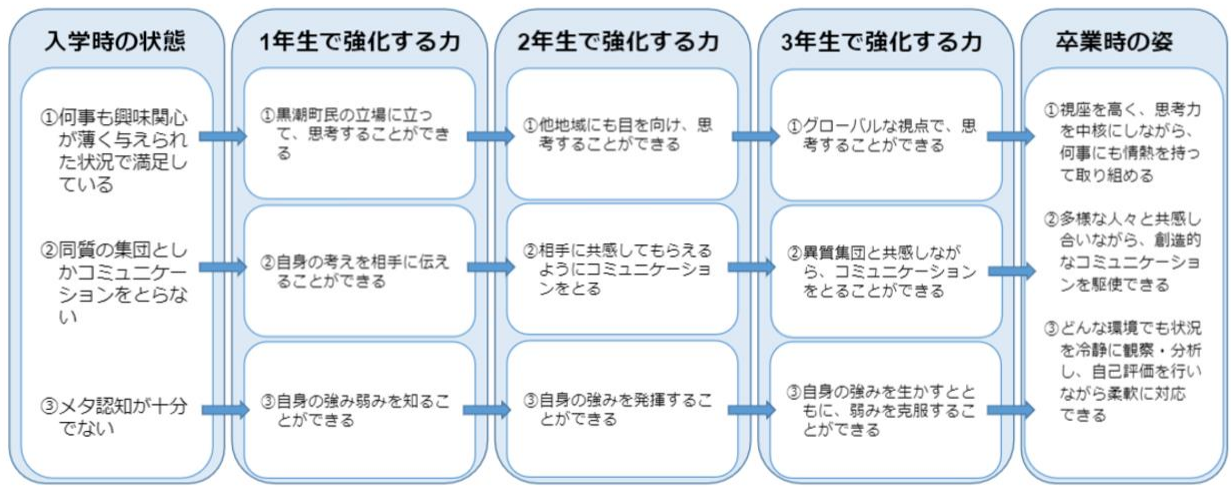
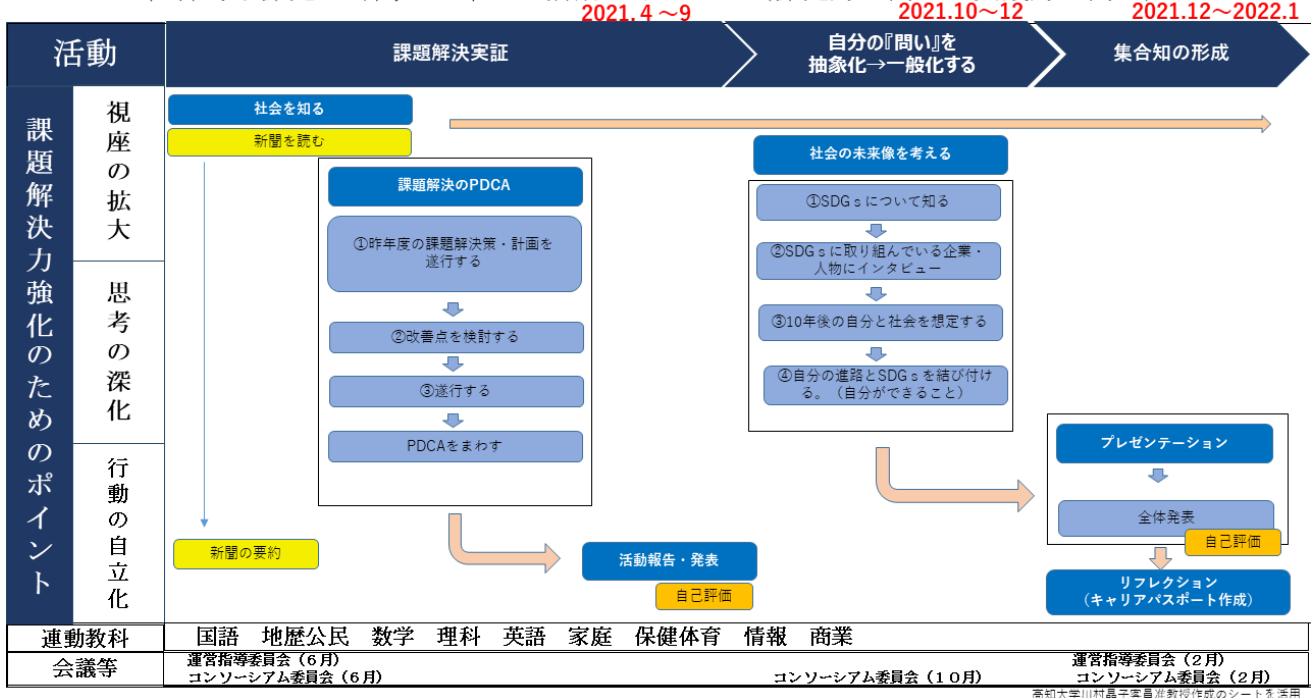
評価については、この単元でも前期と同様にルーブリック評価を用いて行った。生徒にも提示して活動をさせた。前期では「頑張ったから5」といった自己評価をする生徒もいたが、この単元ではしっかりルーブリックを基に「ここの部分ができていないから2」といったように自己評価ができている生徒が多かった。

(3)「総合的な探究の時間」3年生の取組について

ア 概要

3年間の集大成として、「情報収集力」、「情報分析力」、「情報編集力」、「判断・決定力」、「論理的思考力」、「表現力」、「批判的思考力」等の課題発見・解決に必要な力を身に付けることを目標に活動を行った。年度当初に年間計画、ループリック評価と卒業までに目指す生徒像を提示した。1年間の見通しと身に付けさせたい力の共有を図り授業を展開していった。以下に、年度当初の活動のイメージ図と卒業までに目指す生徒像を示す。

総合的な探究の時間の3年生の活動のイメージ (探究力の向上と実践力の向上)



卒業までに目指す生徒像

イ 生徒観

本学級は、日頃からやるべきことをわきまえて生活している生徒が多く、穏やかな雰囲気です。学習に取り組むことができます。その一方で、積極性に欠ける面もあり、発言も控えめで、自発的な活動が求められるという課題も残る。

ウ 活動報告

活動は、下図のOODA ループに基づいたルーブリック評価を生徒に示し進めていった。

観点/レベル	1	2	3	4	5
Observe (観察)	特定の情報源でしか情報を収集できない。何のために情報収集(観察)しているのか理解できていない。	情報収集は一定できているが、一面的な見方で情報の収集がなされている。また目的がはっきりしていないので、情報の内容に一貫性がない。	情報収集の目的は明確である。多くの情報源から情報を得ようとしているが、視点が一面的であるため、やや情報の内容に偏りがある。	収集の目的が明確であり、多くの情報源から情報を得ることができている。固定観念に囚われず、多面的な視点をもって多くの情報を収集できる。	固定観念に囚われず、多面的な視点をもって情報を収集できる。また、特定の情報源だけでなく、対象の観察や調査を実施して、多くの情報を集めている。収集の目的が明確なので、その内容は一貫性がある。
Orient (方向付け)	情報を理解できず、分析することができない。また、情報の選択をすることができない。課題解決への方向性も定まらない。	情報を理解することはできるが、分析が甘い。必要な情報か否かの取捨選択ができないので課題解決に向けての方向づけができない。	情報を理解し、分析できている。それらを整理し活用することが一定できているので、課題解決に向けて方向づけができつつある。	情報を正しく分析、整理することができる。また、それらを活用し課題解決に向けての方向づけができる。	情報を正しく分析し、整理することができる。また、その中から必要な情報を選択して活用し、相手のニーズにも沿った課題解決のアイデアへの方向性を決めることができる。
Decide (決定)	方向づけに対し、解決に向けての必要な行動計画が立てられない。	解決に向けて定めた方向づけに対し、やりたいことはあるが必要なことを考えだすことができない。	解決に向けた方向づけに対し、どのようなことをやりたいか選択し、決定することはできる。実行のプロセスについては、定まりつつある。	解決に向けて定めた方向づけに対し、どのようなことが必要か判断し、実行のためのプロセスを決定することができる。	解決に向けて定めた方向づけに対し、どのようなことが必要か確に判断し、実行のためのプロセスを合理的に決定することができる。
Act (実行)	方向づけの理解が十分にできていないので、解決のための行動ができない。	解決のためのプロセスを実行しているが、状況の変化を捉えられないので、一度決めた行動に縛られている。	解決のためのプロセスを実行しながら、状況の変化を捉えることはできている。しかしながら、適切な行動に結びついていない。	解決のためのプロセスを実行しながら、状況の変化を捉え適切に対応して、ループを繰り返すことができる。	解決のためのプロセスを実行に移し、行動しながら状況の変化に迅速かつ適切に対応して、ループを繰り返すことができる。

OODA ループに基づいたルーブリック評価

< 単元1 黒潮町の課題発見・解決学習(グループ学習) >

本単元は、「黒潮町の課題を発見し解決する」というテーマで、「自分×地域」という切り口から、課題発見にともなう情報収集や情報分析などを行う。そして、「自分を取り巻く社会の問題を明確にする力」や課題解決にともなう方向付けや行動などを通して「課題解決に向けて適切なプロセス決定し行動する力」を養うために実施した。

指導上の留意点として、生徒が「自律的に思考し、行動するための伴走」と以下の3点を心掛けた。

- ・ 論理的思考を鍛えるため、1時間ごとの活動を文章でアウトプットする
- ・ 皆の考えで意見を作っていく必要があるため、考えを可視化する
- ・ 想像だけでなく確かな情報(根拠)を集めて意思決定を図る

学習活動は以下の流れで行った。

- ・ 黒潮町アクションプラン読み込み・テーマ設定
- ・ 各テーマに分かれて課題発見(情報収集や分析)
- ・ 課題解決に向けて行動
- ・ 活動発表会

まず、黒潮町の行政施策とその施策が立ち上がった経緯を理解するために「黒潮町アクションプラン」を読ませた。そこから興味をもった分野を聞きとり、以下に示す6つの班に生徒を振り分けた。

- (1班) 黒潮町の人口減少
- (2班) 地域で子育て世代をサポートする
- (3班) 防災意識の向上
- (4班) 黒潮町を子育て世代と高齢者が共に助けあえる町に
- (5班) 黒潮町を知ってもらう
- (6班) 無駄のない黒潮町へ

各テーマに分かれ、インターネットや黒潮町役場・産業従事者の方へのインタビューなどで情報を収集・分析し課題発見に努めた。検索すればすぐに出てくるような情報だけで課題解決に向かおうとする班が多くあったため、科学的な根拠の必要性、地域の生の声などで得られる情報と統合して課題を発見するよう声かけをした。情報収集の手段としてアンケートを活用したり、役場主催のインターンシップへ参加したりする生徒も現れ、質の高い客観的な根拠と主観的な根拠を集められる班も出てきた。

課題解決に向けた取組としては、実践までできた班はおらず、解決に向けたプロセスを決定するまでにとどまった。

9月21日に「課題解決に向けた方策発表会」として、今年度のこままでの学習成果を発表した。講評者として、黒潮町教育委員会教育長 畦地和也 氏、カリキュラム開発等専門家 川村晶子 氏、地域協働学習実施支援員 松田真紀 氏・西村優美 氏をお招きして実施した。

客観視と主観での自己評価を獲得させることをねらい、“聞き手用”と“発表者用”ワークシートを用意した。事前に生徒たちに明示することで目指す姿を認識させた状態で発表会に臨ませることができた。そこで、自己評価と評価者の評価に乖離があることを、指導者・学習者共々気づく機会となった。

【目的】	
①どのような発表が伝わりやすいか、客観的に認識する。	
②他班の取組状況や課題を聞く中で、課題発見や課題解決において重要なことを理解する。	
【発表者への評価項目】	
問1. それぞれの項目に4段階で評価をつけてみてください。	
1.よくわかった 2.少しかわかった 3.あまりわからなかった 4.わからなかった。	
☆ 1・2を答えた場合はどのような点が良くてそう感じたのか、3・4と答えた場合はどうすればうまく伝わると思うか書いてください。	
問.	項目.
①.	それぞれの活動内容が目的をもって行われていることがわかった。 (根拠・本質を念頭に活動が行われていたか)。
②.	その班が得た経験や考えが伝わった。(ストーリー性・構成力・表現力)。
③.	答.
④.	答.
問2. 発表を聞いてみて、考え方や取り組みの姿勢などを従来のものから新しいものに変えたいと思った点がありましたか。また、こんなことをしてみたら更に良い方向に向かうのではないか・私ならこうする等があれば記入してください。 【聞き手の意識改革】	

聞き手用ワークシート

【発表会をする目的】				
①「伝える」発表を念頭に、論理的に説明することを心掛ける習慣を身につける。				
② 聞く側に気づきを与えられるような発表方法を身につける。				
【評価項目】以下の項目で評価をするので意識してみましょう。				
項目.	3.	2.	1.	0.
構成	十分、論理的に構成されている。	論理的に構成されている。	論理的な構成が少し不足している。	論理的な構成ができていない。
①論理性				
②適切な量				
資料	十分に説得力のある資料である。	説得力のある資料がある。	説得力が不足している。	説得力がない。
①文字の大きさ				
②図表の確実さ				
発表姿勢	堂々と聞き手を見ながら声量も十分に発表できている。	視線や声量ともに一定のレベルに達している。	視線、声量を改善する必要がある。	発表全体を大きく改善する必要がある。
①視線				
②声量				
発表時間	時間配分が適切である。(±1分)。	ほぼ時間内である。(±2分)。	時間が少し超過している、あるいは少し短い(±3分)。	時間が大幅に超過している、あるいは大幅に短い。
問1. 発表するにあたって、どのようなことを意識・工夫しましたか。				
問2. 1年半以上のPBL活動をおとして、学んだこと・感じたことを思い返して、今後「意識したい」と思えるようになったことを教えてください。(理由も明記するように)。				

発表者用ワークシート

学年団での振り返りでは、この単元を経て、生徒が実社会における課題を発見すること(課題発見力)とともに見通しもってゴールを目指すこと(計画力)の難しさを実感するとともに、注力しなければならぬ箇所も見えてきた。探究活動の素養となる情報収集、情報整理・分析、方向付け等を身に付けたのちに、本単元を実施すると効果的な内容になったのではないかと推察する。ただし、前提として指導者の指導に関する必要事項の共通認識、各班の進捗状況や困り感等の情報共有を丁寧に行う必要がある。担当者の企画と授業に関するファシリテーション力が求められるとともに、学年団で協力体制を築ける仕組みを考えておく必要を感じた。



活動の様子

< 単元2 食品ロス解決に向けたアイデア（個人学習） >

本単元は、SDGs を自分事として受け止めてもらうことを目標にするとともに、以下の3点を身に付けてもらいたく取り組んだプログラムである。

- ・自分を取り巻く社会の問題に対し課題を明確にする力（なぜ取り組むのか）
- ・多様な情報を収集・編集しながら、解決のためのプロセスを整理する力（論理的思考）
- ・自分の考えを伝えることで相手の行動も変えるプレゼンテーション力（新規性、創造性）

指導上の留意点として、様々な視点を提供することと生徒の状況を把握することを掲げ、学年団で担当の生徒を割り当てた。

学習活動は以下の流れで行った。

- ・フードロスの現状を知る（世界・日本の概要）
- ・先人の課題解決行動について知る（坂本龍馬）
- ・“持続可能な開発”のための経営資源について知る（ヒト・モノ・カネ・情報）
- ・フードロス解決方法について社会人と対話（アウトプット）
- ・プレゼンテーションを行い、レビューを受ける（アウトプット）
- ・アイデア発表会（アウトプット）

フードロスの現状を知る（世界・日本の概要）について

事前に Forms を活用して生徒からアンケートを取ると、SDGs・食料問題ともに抽象的な概要や言葉を知っている生徒は過半数を超えていたが、目的や具体的な内容を説明できる生徒は少数であった。SDGs 概要とフードロス現状について講義と動画視聴を行い、ワークシートを活用して現状についてのインプットを行った。

先人の課題解決行動について知る（坂本龍馬）について

目まぐるしく変化する現代社会と幕末から明治にかけての混乱期を重ねてみて、過去にも様々な困難を迎える中で志高く行動をし、改革を起こそうとした龍馬の姿に感化される生徒が多いのではないかと思います。学習材として“坂本龍馬”をあつかった。高知の偉人である坂本龍馬が目的達成のために、どのような行動をとったか、どのようにヒト・モノ・情報・カネを工面したか、といった点を生徒の探究

10月19日 総合的な探究の時間

名前()

目標 _____ の危機的状況を自分ゴトとして捉える。

重要メッセージ
_____ であらなくても、_____ であってはならない

メモ欄(気になることがあれば)

☆動画をcheck!
①世界の人口__億人 ②飢餓人口__億人
③日本の人口__億人 ④日本の食料自給率__%
⑤日本の食品ロス__トン ⑥ワイン一本に水は__リ

食生活について考えよう

①印象に残ったことを教えてください。

②事例課題を思い返して、地理に生かせる一人として改善できそうな点を考えて記入してください。(例:消費するモノの産地を確認するなど)

③今後、どのようなことに気を付けて食事をとっていきたいか、記入してください。

SDGs とフードロス学習ワークシート

活動の参考にするため取り入れた。対話型の学習活動に加えて、高知県立坂本龍馬記念館の訪問も実施した。訪問の際は、当館の学芸員様に趣旨を説明し、ご講演いただいた。

“持続可能な開発”のため、経営資源について知る（ヒト・モノ・カネ・情報）について

課題解決に向けてどのような要素で物事を捉えるかといった際に、経営資源の存在や扱い方を知る必要があると考え取り入れた。企業が経営資源にどのように注力して、経営を回しているのか、坂本龍馬が課題解決に向けてどのように経営資源を扱ったかを紹介した。“情報”の重要性が生徒たちにはとても伝わったように感じた。

11月2日 総合的な探究の時間

名前()

本時の目標
①課題への立ち向かい方を知る。
②アイデア実現のために必要な経営資源について考える。

①課題への立ち向かい方(先人・現代人)

【先人(坂本龍馬)】
【現代(坂本龍馬)】

【先人(坂本龍馬)】
【現代(坂本龍馬)】

②アイデアを実現するための経営資源について

① ② ③ ④

ミッション④ 情報
【情報を強みとして様々なビジネス展開をしている企業を調べ(内容も)】
例:リクルート(じゃらんやカーセンサー)

○他者のミッションから経営資源の事例を知る。(各資源の情報を収集)

経営資源学習ワークシート

フードロス解決方法について社会人と対話（アウトプット）について

フードロス解決策について、ワークシートを基に思考させて社会人の方々と対話する機会に臨ませた。思考が可視化できることを心掛けてワークシートは作成した。

当日は、15人の外部の方に来校していただき生徒たちと関わっていただいた。黒潮町役場の方々や高知大学

アイデアスケッチ

サービス名称(タイトル)

どんなものか分かりやすく 絵と文字で表現

どこ?(場所)

いつ?(時間帯)

誰をターゲットにしている?

フードロス解決策ワークシート

の教職員、金融機関、IT 関係、NPO 団体等の方々のご協力くださり、生徒たちは多様な視点を獲得できる機会となった。

プレゼンテーションを行い、レビューを受ける（アウトプット）について

講評者として、カリキュラム開発等専門家の川村晶子 氏、富士通 Japan 株式会社 森和美 氏、富士通ラーニングメディア 拝野晃希 氏をお招きしてご指導いただいた。一人一人に思考を深め広げるコーチングをしていただき、生徒教員共々学べる機会となった。



プレゼンを行い、レビューを受ける様子

アイデア発表会（アウトプット）について

1月11日にフードロス解決に向けた方策を発表する機会を設けた。講評者として、カリキュラム開発等専門家 川村晶子 氏、富士通 Japan 株式会社 森和美 氏、富士通ラーニングメディア 拝野晃希 氏、環境の社 中村将大 氏、海のこども 村上弓恵 氏をお招きして実施した。一人一人の着眼点が異なり、多様なアイデアを聞ける機会となった。講評者の方々からは、情報収集や分析・プレゼン等の様々な視点よりアドバイスをいただいた。

No.	評価視点	点数	評価すべきこと	努力が必要なこと
1	テーマに対し自分の視点で課題を再定義している (なぜ取り組むのか、納得できる根拠の明示および新規性)			
2	多くの情報を取り込み、分析し、多角的な視点で課題を掘り下げている(探究力)			
3	課題解決に向けた取り組み提案を論理的に展開している(論理的思考)			
4	聞き手を動かす言葉、ストーリー、表現方法を用いてプレゼンを行っている(表現力)			
5	プレゼン態度(聞き取りやすい声、表情、しぐさ)			
	合計	0		

アイデア発表会評価シート

単元2の振り返りについて

成長させたい力で掲げていた、3つの力を一定身に付けさせられたと思う。特に、必要性については生徒各々が自覚できる学習内容になった。学習活動を効果的に展開できた要因としては、「進路決定の際に、探究活動で必要とされる力・思考法と進路先で求められる力・姿とのつながりを実感できたこと」、「要所において外部の方と連携し、多様な視点や実体験から基づくエピソードを聞いたこと」、「学年団教員との連絡を密にし、成長させたい力や困り感を共有できたこと」があげられる。

総合的な探究の時間の授業設計をしていくうえで、「何のために何を教えるか」を教員間で協議できる機会を設けることが今後の探究活動において最重要課題だと感じる。また、探究活動において生徒の進捗状況や方向は多岐にわたるので、柔軟性をもった関わりがもてるよう教員側の指導観を醸成する必要があると感じる。本事業によるコンソーシアム等の協力体制を生かし、よりよい教育活動に向けて丁寧な準備をしていきたい。



アイデア発表会の様子

3 アンケート結果と分析

本研究の成果を確認するにあたり、本年度も3種類のアンケートを実施し、その結果をもとに生徒の成長や研究の成果を評価した。実施するアンケートは、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングが実施する「高校魅力化評価システム」、本校で作成した生徒と地域住民に対して実施する「指定事業効果測定アンケート」である。なお、大方高校が作成したアンケートは、生徒用と地域住民用で調査内容が異なるため、2つは異なるアンケートとして位置づけている。

「高校魅力化評価システム」は、年間1回実施される調査であるため年度内で生徒の実態や成長の比較はできないが、経年変化や学年、他地域の同システムの実施校の状況との比較により、全国と比較して結果の把握と分析ができるというメリットがある。

表 実施したアンケート一覧

項目 アンケート	実施主体	対象	実施時期	実施形態
高校魅力化評価システム	三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング	生徒・地域住民等	令和3年 11月	選択
指定事業効果測定アンケート	大方高校	生徒	令和3年 11月 令和4年 1月	選択・記述
指定事業効果測定アンケート	大方高校	地域住民	令和4年 1月	選択

(1) 高校魅力化評価システム（62ページ参照）

全体として、学習活動、学習環境、生徒の自己認識、生徒の行動実績ともほとんどの項目で平均値を上回る結果であった。特に学習活動では、主体性・協働性・探究性・社会性の全てで平均値よりもかなり高い水準にある。「グループで協力しながら学習や調べものを行う」、「地域の課題の解決方法について考える」、「自主的に調べものや取材を行う」などの項目が高く、探究活動や地域との協働活動に取り組んだ成果がうかがえる。一方、アンケートの時期がコロナ禍と重なり、地域との協働活動が制限された学校もたくさんあり、平均値が上がっていない面もあると思われる。昨年度との比較では、学習活動ではほとんどの項目で上昇をしていた。引き続きこれまでの取組を深化させながら継続し、目指す力を身に付けさせていきたい。

学年ごとに担当者が分析した結果は、20ページの研究開発完了報告書11 目標の進捗状況、成果、評価に記載している。

(2) 防災活動や地域課題解決学習に関する生徒アンケート（66ページ参照）

生徒対象のアンケートについては、第1回（9月）と第2回（2月）の2回実施した。設問は、本事業で育みたい力としてあげている5つの力（「探究力」、「つながる力」、「多様性受容力」、「マネジメント力」、「レジリエンス」）に基づく内容とした。

1年生で肯定的な回答が最も高かったのは、問1「学習活動をとおして、計画を立てて取り組み、それを実現する力が身に付いたと思いますか」で、71.9%であった。一方、肯定的な回答の割合が少なかったのは、問8「学習活動をとおして地域の厳しい現実を把握し、それをよい方向に変えようと解決策の提案や実践を行う力が身に付いたと思いますか」で、53.1%であった。

2年生で肯定的な回答が最も高かったのは、問2「学習活動をとおして、地域の魅力や良さを理解する力が身に付いたと思いますか」で、85.7%であった。一方、肯定的な回答の割合が少なかったのは、問9「学習活動をとおして、高校卒業後も何らかの形で地域の課題解決に関わる力が身に付いたと思いますか」で、53.6%であった。

3年生で肯定的な回答が最も高かったのは、問2「学習活動をとおして、地域の魅力や良さを理解する力が身に付いたと思いますか」で、92.9%であった。一方、肯定的な回答の割合が少なかったのは、問5「学習活動をとおして、地域の魅力や良さを、他の地域の人に自分の言葉で伝えることができる力が身に付いたと思いますか」で、85.7%であった。

本年度の9月と1月を比較すると、3年生は7つの項目で上昇をしている。探究的な活動や地域に貢献する活動に取り組んできた成果と考える。逆に2年生は6つの項目で下がり、1年生はすべての項目で下がっている。取組の成果が出ていない部分もあると思われるが、生徒からの聞き取りでは、学ぶことによって、自分ができると思っていたことがまだまだ不十分であるということに気づき評価を下げているという意見もあった。3年次には目指す力が付いているよう、生徒の意見も聞きながら取組を推進していきたい。

令和3年1月と令和4年1月の比較では、3年生は昨年の3年生より上昇しており、また、2年生のときよりすべての項目で上昇をしている。9月と1月の比較と同じく取組の成果が出ていると考えられる。1・2年生は9月と1月の比較と同じように、下がる結果となっており、こちらにも、3年次には目指す力が付いているよう、生徒の意見も聞きながら取組を推進していきたい。

指導者側と学習者側の評価については、両者に乖離を感じる箇所が複数存在したため、各学年でこの評価をもとに、来年度の評価方法の工夫を図る必要性を感じた。

また、肯定的な回答をした生徒の理由について記述した内容を、次の6つのカテゴリーに分類した。

- ・「経験・行動」：学習や情報収集ほか、地域に出て行う活動にもとづく記述
- ・「成長実感」：以前と比較してできなかったことができるなど成長を意識した記述
- ・「思考活動」：考えたり比較したりする活動にもとづく記述
- ・「気づき・理解」：新たな気づきや再確認、理解などに関する記述
- ・「意欲表明」：将来に向けた方向づけや「～したい」といった前向きな記述
- ・「その他」：いずれの分類にも入らない記述

記述内容には、「地域の良さに目を向けて考えた」、「地域の為に何をしたらいいか考えた」、「マイナスもとらえ方を変えてプラスにできた」、「黒潮町ならどう生かすことができるか考えた」、「地域の人々の意見を聞いて案を考えた」など、たくさんの肯定的な意見を知ることができた。地域の人々と触れ合う活動を通して学びが展開されることにより、気づきや理解が促進され、意欲や成長の実感につながっていると考えられる。

(3) 大方高校の地域貢献活動に関する地域住民アンケート（70ページ参照）

地域住民を対象としたアンケートでは、地域住民182名から回答を得ることができた。肯定的な回答が最も高かったのは、問7「生徒たちの取組は、今後も継続させてほしいと思う」で、98.4%であった。

一方、肯定的な回答の割合が少なかったのは、問6「生徒たちが取り組む活動は、地域住

民が高校の存在を意識するものになっている」と問9の生徒たちが行う取組に対して、地域住民は積極的に協力していると思う」であった。

前年度と比較して、90%以上の肯定的な回答の項目数は変化ないが、数値が下がった項目は問2から問6の5項目である。数値が上がった項目は問8と問9の項目である。

コロナ禍の中で地域住民との活動が大幅に縮小されているが、数少ない活動の中で「高校生と一緒にやったらやってみようかと思った」、「楽しかった」、「思い切って参加して良かった」という声を聞いた。高齢化が進む黒潮町の中で高校生と一緒に活動することは、単に防災だけでなく地域住民同士をつなぐ役割も担っていると思われる。そういった意味で本校の取組の継続が期待されている。また問2「生徒たちが行う防災の取組は、黒潮町が掲げる「犠牲者0」を目指す思想の実現につながるものであると思う。」については、生徒たちの活動が住民の避難意識の向上につながっていると思われ、活動目的が達成されていることを表している。

一方、問6「生徒たちが取り組む活動は、地域住民が高校の存在を意識するものになっている」と問9の「生徒たちが行う取組に対して、地域住民は積極的に協力していると思う」について肯定的な意見がやや低くなっているのは、コロナ禍の影響が大きいと考えられる。実際に協力していただく活動がコロナ禍前と比較し極端に少なくなっている。次年度は「ウィズコロナ」の活動を考えていく必要がある。

Ⅶ 次年度に向けて

2年目となった指定事業であったが、本年度も新型コロナウイルス感染症のため制限の多い中で事業展開となった。できることを考え、対面での交流が難しい場合は昨年より急速に進んだオンラインを活用して生徒の学びが止まらないように努めた。特に、カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員、コンソーシアム委員等の方々の協力により、オンライン・対面ともに協働活動に参画または参画してもらえる人材をたくさん紹介いただいた。これにより、多様な方と生徒が交流することができ、目指す力の向上につながった。オンラインにより交流回数は昨年度より増加をしたが、生徒の成長を考えるとやはり対面での交流が必要であることも感じ、オンラインをうまく活用しながら、対面での協働活動により生徒の成長を目指していきたい。

また、本年度は昨年度の課題であったルーブリック評価を本校の「目指す生徒像」にそって作成し、本年度当初に教員におろし、共有を図って事業を進めた。生徒にも年度当初のオリエンテーションで示し、各單元においてはそのつど示しながら展開を行った。昨年よりは目指す姿、付けるべき力のイメージができたと思われるが、まだまだそのメリットを生かし切れていない。

課題としては、探究学習を「自分ゴト化」できず、主体的に学習に向かえない生徒に対する指導・支援方法が挙げられる。コーチングなどの教員研修も必要となってくるが、まずは学年団内で困り感や進捗状況の共有ができる環境づくりが必要である。定期的な共有会を週に1回開催するなど対応をしていきたい。

本年度も多くの方々のご支援を受けて本事業を推進することができた。たくさんの方と活動することで、地域のことを考えた課題解決への意欲や社会参画意識の向上が見られている。引き続きこれらの事業を深化させながら推進し、変化の激しい社会で活躍できる人材の育成を目指して取り組んでいきたい。

補 足 資 料



資料1 高校魅力化評価システム

Portfolio of sustainable education and community

高校魅力化評価システム 組織診断ポータル

高校名	高知県立大方高等学校											
年度	2021年度											
回答者数	生徒・学生	87 (内訳)	1年生	31	2年生	28	3年生	28	4年生	0	5年生	0
	(昨年度)	81 (内訳)	1年生	28	2年生	32	3年生	21	4年生	0	5年生	0
	大人	37 (内訳)	教職員	19	(昨年度)	大人	35	(内訳)	教職員	15		

【MEMO】
教育目標、育てたい生徒像など

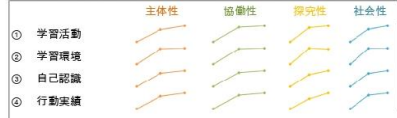
Summary 総括表

■ 今回の結果 (まとめ)

	主体性	協働性	探究性	社会性
① 学習活動	3	4	4	4
② 学習環境	4	4	4	4
③ 生徒の自己認識	3	4	3	3
④ 生徒の行動実績	3	3	3	3

※肯定的回答割合が50%未満=1,50~65%=2,65%-80%=3,80%以上=4

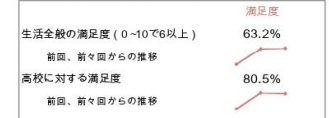
■ 前回、前々回からの肯定的回答割合の推移 (まとめ)



■ 強み・伸びしろ

	強み: 肯定的回答割合が最も高い項目	伸びしろ: 肯定的回答割合が最も低い項目
① 学習活動	93.1% グループで協力しながら学習や調べものを行う	67.8% 学校外のいろいろな人に話を聞きに行く
② 学習環境	92.0% 推薦する人に対して、応援する雰囲気がある	65.5% 地域に、尊敬している・憧れている大人がいる
③ 生徒の自己認識	95.4% 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	54.0% 将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う
④ 生徒の行動実績	82.8% 修業で分らないことを、自分から質問したり、分る人に質問し	59.8% いま住んでいる地域の行事に参加した

■ 総合的な生徒の満足度 (◎)

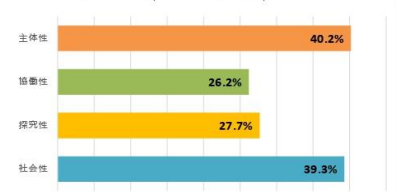


① 学習活動 (明示的なカリキュラム)

■ 今回の結果



■ 前回調査時からの変化 (回答上昇者の割合)



※上段の数値 (%:縦軸) が肯定的回答割合、下段の数値が平均値

② 学習環境 (学びの土壌: 非明示的なカリキュラム)

■ 今回の結果



■ 前回調査時からの変化 (回答上昇者の割合)



【学習活動】【学習環境】読み取り・検討の視点

- ・ 自校の強みや課題、それを増進/克服するための、協働のあり方は?
- ・ 普段から意識して取り組んでいる活動の機会や環境づくりは? その成果は出ていますか?
- ・ 協働を支えるコーディネート機能として、どのような役割が必要か?

How to read 結果の読み取り方

このポータルでは、以下の5側面、4領域、3軸より、高校と地域の学びの「いま」と「変化」を読み取ることができます。

- 5つの側面から → 各校・地域の状態を、「①学習活動」「②学習環境」「③生徒の自己能力認識」「④生徒の行動実績」「⑤満足度」の5つから把握しています。
- 4つの領域から → 各設問を「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの資質・能力に関する領域に分類しています。
- 3つの軸で → 上記のデータを「時間軸(前年度からの伸び)」「学年軸(学年による違い)」「地域軸(他地域との比較)」の3つの軸で整理しています。

結果に出てくる数字や言葉は次の意味を表しています。

- 【割合 (%)】 → 各項目で「4. あてはまる」「3. どちらかといえばあてはまる」という肯定的回答をした割合
- 【平均】 → 「あてはまらない=1」~「あてはまる=4」の回答の平均値
- 【他地域】 → 同じ機会に調査を実施した他校の回答の平均値
- 【回答上昇者の割合】 → (個人IDで紐づけを行い、複数回調査を実施した場合に表示) 前年と比べて、各領域の回答平均値が上がった回答者の、全回答者に占める割合

③ 生徒の自己認識 (資質・能力の主観的認識)

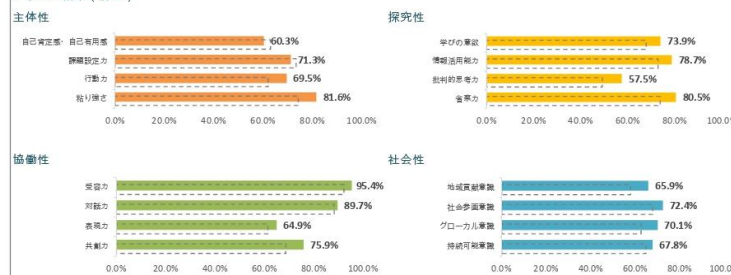
■ 今回の結果



■ 前回調査時からの変化 (回答上昇者の割合)



■ 今回の結果 (詳細)



※点線は他地域における肯定的回答割合

【生徒の自己認識】読み取り・検討の視点

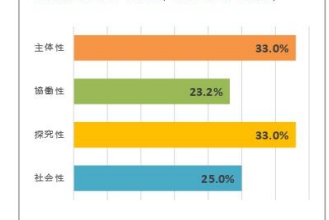
- ・ 普段から意識している、育てたい生徒像や、身につかせたい力に関する指標の結果は?
- ・ 前回からの変化は? その要因として、何が考えられそうか? (学習活動、学習環境と関連付けて)
- ・ 今後、意識して伸ばしていきたいと考えられる力は? そのために必要な「次の一手」は?

④ 生徒の行動実績 (資質・能力の発揮)

■ 今回の結果



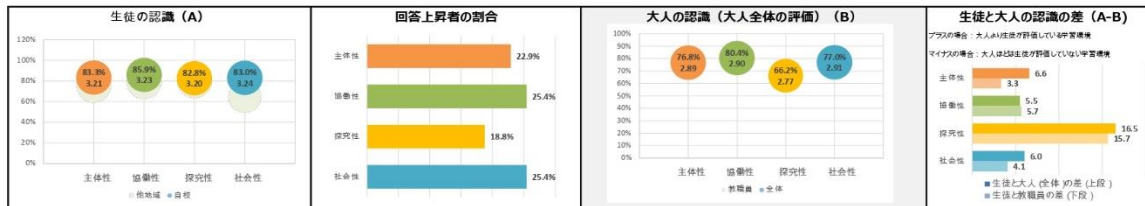
■ 前回調査時からの変化 (回答上昇者の割合)



【生徒の行動実績】読み取り・検討の視点

- ・ 生徒に期待する具体的な行動は?
- ・ 生徒の自己認識との関連は?
- ・ 具体的な行動を促すような、学習活動や学習環境づくりはできているか?

② 学習環境（学びの土壌：非明示的なカリキュラム）



	生徒の認識 (A)				大人の認識 (大人全体の評価) (B)				生徒と大人の認識の差 (A-B)	
	割合 (%)	昨年増との差 差(p)	他地域との差 差(p)	回答上昇者	割合 (%)	昨年増との差 差(p)	3ヶ数値	昨年増との差 差(p)	生徒と大人 (全体)	生徒と教職員
主体性に関わる学習環境	83.3%	2.88	8.19	22.9%	76.8%	11.6	80.0%	13.33	6.6pt	3.3pt
20 失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	85.1%	-5.07	8.31	17.9%	70.3%	13.13	73.7%	27.02	14.8pt	11.4pt
21 挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	92.0%	-1.87	2.24	16.1%	93.5%	89.3%	92.9%	14.74	0.1pt	-2.8pt
33 目標や当事者意識を持って挑戦している人がある	89.7%	3.24	9.27	17.9%	64.9%	2.01	63.2%	-3.51	24.8pt	26.5pt
34 地域に尊敬している憧れている大人がいる	65.5%	8.73	10.57	30.4%	-	-	-	-	-	-
30 人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	79.3%	15.11	18.04	35.7%	64.9%	7.72	73.7%	13.68	14.4pt	5.6pt
26 自分が何かに挑戦しようと思つたとき、周りから手を差し伸べてくれる	88.5%	-2.85	0.70	19.6%	91.9%	20.46	94.7%	14.74	-3.4pt	-6.2pt
協働性に関わる学習環境	85.9%	3.20	7.16	25.4%	80.4%	16.12	80.3%	25.26	5.5pt	5.7pt
22 人とまじることが尊重される雰囲気がある	88.5%	2.09	8.90	23.2%	86.5%	29.34	89.5%	42.81	2.0pt	-1.0pt
23 ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	81.6%	-6.05	0.10	17.9%	83.8%	20.93	73.7%	20.35	-2.2pt	7.9pt
27 自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある	86.2%	1.02	4.25	26.8%	67.6%	-1.00	68.4%	15.09	18.6pt	17.8pt
28 立場や役割を超えて協働する機会がある	87.4%	15.75	15.41	33.9%	83.8%	15.21	89.5%	22.81	3.6pt	-2.1pt
探究性に関わる学習環境	82.8%	-4.90	2.77	18.8%	66.2%	4.07	67.1%	-2.89	16.5pt	15.1pt
17 本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	73.6%	-9.15	-8.71	19.6%	59.5%	8.03	63.2%	23.16	14.1pt	10.4pt
18 将来のことを実現したいことを話し合える大人がいる	87.4%	-0.30	8.73	19.6%	73.0%	7.26	68.4%	-4.91	14.4pt	18.9pt
24 周りの大人は、じっくり話を聞き、考える手助けをしてくれる	86.2%	-6.39	1.04	14.3%	67.6%	4.71	68.4%	-11.58	18.6pt	17.8pt
31 お互いに思いかけあう機会がある	83.9%	-3.75	10.03	21.4%	64.9%	-3.71	68.4%	-18.25	19.0pt	15.5pt
社会性に関わる学習環境	83.0%	0.64	18.33	25.4%	77.0%	10.60	78.9%	3.95	6.0pt	4.1pt
19 地域が大切にされている雰囲気を感じる	81.6%	-8.51	6.05	23.2%	83.8%	12.36	84.2%	4.21	-2.2pt	-2.6pt
25 興味を持つことに対してすぐに指導してくれる大人がいる	87.4%	-0.30	14.84	16.1%	73.0%	1.54	78.9%	-1.05	14.4pt	8.4pt
29 地域の人や課題などに積極的に触れる機会がある	87.4%	9.58	30.62	30.4%	81.1%	15.37	84.2%	4.21	6.3pt	3.1pt
32 自分暮らし地域を、外からの視点で考える機会がある	75.9%	1.79	21.79	32.1%	70.3%	13.13	68.4%	8.42	5.6pt	7.4pt

※大人の自己評価は、21_大人用シートで確認いただけます。

① 学習活動（明示的なカリキュラム）



	全校				1年生 (2021入学生)				2年生 (2020入学生)				3年生 (2019入学生)			
	割合 (%)	昨年増との差 差(p)	他地域との差 差(p)	回答上昇者	割合 (%)	昨年増との差 差(p)	1学年入学生との差 差(p)	1学年入学生との差 差(p)	割合 (%)	昨年増との差 差(p)	2学年入学生との差 差(p)	2学年入学生との差 差(p)	割合 (%)	昨年増との差 差(p)	1年→3年 推移	回答上昇者 割合 (%)
主体性に関わる学習活動	70.1%	17.03	19.87	79.0%	66.1%	21.43	48.2%	48.2%	64.3%	4.91	4.91	4.91	64.3%	4.91	32.1%	32.1%
5 自分の考えを文書や図表で行う	72.4%	15.62	5.08	87.1%	64.3%	17.86	46.4%	46.4%	64.3%	-1.34	-1.34	-1.34	64.3%	-1.34	28.6%	28.6%
6 学校外のいる人に話を聞きに行く	67.8%	18.43	34.67	71.0%	67.9%	25.00	50.0%	50.0%	64.3%	11.16	11.16	11.16	64.3%	11.16	35.7%	35.7%
協働性に関わる学習活動	88.9%	7.82	15.36	93.5%	81.0%	5.95	39.3%	39.3%	91.7%	-1.04	-1.04	-1.04	91.7%	-1.04	13.1%	13.1%
7 グループで協力しながら学習や調べものを行う	93.1%	7.92	11.22	96.8%	85.7%	-3.57	35.7%	35.7%	96.4%	2.68	2.68	2.68	96.4%	2.68	14.9%	14.9%
8 活動、学習内容について生徒同士で話し合う	92.0%	5.53	4.20	96.8%	89.3%	10.71	42.9%	42.9%	89.3%	-7.59	-7.59	-7.59	89.3%	-7.59	10.7%	10.7%
9 活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う	81.6%	10.00	30.66	87.1%	67.9%	10.71	39.3%	39.3%	89.3%	1.79	1.79	1.79	89.3%	1.79	14.3%	14.3%
探究性に関わる学習活動	84.5%	9.79	13.71	87.9%	84.8%	12.50	33.9%	33.9%	80.4%	0.67	0.67	0.67	80.4%	0.67	21.4%	21.4%
10 自分の考えを文書や図表にまとめる	80.5%	17.50	13.38	87.1%	78.6%	7.14	25.0%	25.0%	75.0%	15.63	15.63	15.63	75.0%	15.63	21.4%	21.4%
11 話し合った内容をまとめる	88.5%	8.26	11.00	93.5%	89.3%	14.29	32.1%	32.1%	82.1%	-5.36	-5.36	-5.36	82.1%	-5.36	17.9%	17.9%
12 活動、学習のまとめを発表する	86.2%	12.13	17.07	83.9%	85.7%	17.86	39.3%	39.3%	89.3%	8.04	8.04	8.04	89.3%	8.04	32.1%	32.1%
13 生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	82.8%	1.28	13.38	87.1%	85.7%	10.71	39.3%	39.3%	75.0%	-15.63	-15.63	-15.63	75.0%	-15.63	14.3%	14.3%
社会性に関わる学習活動	85.1%	18.39	36.44	80.6%	84.5%	22.62	44.0%	44.0%	90.5%	18.60	18.60	18.60	90.5%	18.60	34.5%	34.5%
14 地域の魅力や資源について考える	87.4%	12.05	41.31	77.4%	92.9%	25.00	46.4%	46.4%	92.9%	8.48	8.48	8.48	92.9%	8.48	25.0%	25.0%
15 地域の課題の解決方法について考える	90.8%	11.79	42.93	90.3%	89.3%	14.29	39.3%	39.3%	92.9%	11.61	11.61	11.61	92.9%	11.61	21.4%	21.4%
16 日本や世界の課題の解決方法について考える	77.0%	31.33	25.08	74.2%	71.4%	28.57	46.4%	46.4%	85.7%	35.71	35.71	35.71	85.7%	35.71	57.1%	57.1%

③ 生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識）

● 10pt以上の増加 ● 0-10ptの増加 ● 減少

	割合(%)	全校			1年生(2021入学生)			2年生(2020入学生)			3年生(2019入学生)		
		昨年との差		割合(%)	昨年入学生との差		割合(%)	1年次との差		割合(%)	2年次との差		割合(%)
		差(pt)	他地域との差		昨年入学生との差	1年次との差		2年次との差					
主体性に関わる自己認識	70.7%	● 11.74	● 2.54	76.6%	● 19.02	-	63.8%	● 6.25	● 26.8%	71.0%	● 5.75	25.0%	
【自己肯定感・自己有用感】	60.3%	● 2.94	● -2.63	66.1%	● 5.41	-	48.2%	● -12.50	● 17.9%	66.1%	● 12.95	28.8%	
49 自分にはよいところがあると思う	65.5%	● -1.15	● -7.97	67.7%	● -3.69	-	53.6%	● -17.86	● 14.3%	75.0%	● 18.75	25.0%	
50 私は、自分自身に満足している	55.2%	● 7.02	● 2.71	64.5%	● 14.52	-	42.9%	● 21.4%	● 21.4%	57.1%	● 7.14	32.1%	
【課題設定力】	71.3%	● 12.01	● -2.07	80.6%	● 19.93	-	67.9%	● 7.14	● 21.4%	64.3%	● -4.46	21.4%	
37 現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	71.3%	● 12.01	● -2.07	80.6%	● 19.93	-	67.9%	● 7.14	● 21.4%	64.3%	● -4.46	21.4%	
【行動力】	69.5%	● 15.84	● 7.48	79.0%	● 29.03	-	64.3%	● 14.29	● 35.7%	64.3%	● 0.22	25.0%	
38 目標を設定し、確実に行動することができる	67.8%	● 15.96	● 6.50	77.4%	● 34.56	-	64.3%	● 21.43	● 42.9%	60.7%	● -4.91	25.0%	
51 自分で計画を立てて活動することができる	71.3%	● 15.71	● 8.46	80.6%	● 23.50	-	64.3%	● 7.14	● 28.6%	67.9%	● 5.36	25.0%	
【粘り強さ】	81.6%	● 16.18	● 7.37	80.6%	● 21.72	-	75.0%	● 16.07	● 32.1%	89.3%	● 14.29	25.0%	
35 うまくいかなかったことにも意欲的に取り組む	83.9%	● 14.77	● 5.80	83.9%	● 19.59	-	78.6%	● 14.29	● 25.0%	89.3%	● 14.29	21.4%	
45 忍耐強く物事に取り組むことができる	79.3%	● 17.58	● 8.93	77.4%	● 23.85	-	71.4%	● 17.86	● 39.3%	89.3%	● 14.29	28.8%	
協働性に関わる自己認識	81.5%	● 10.63	● 3.84	81.9%	● 10.43	-	76.3%	● 4.91	● 18.8%	86.2%	● 9.21	19.2%	
【寛容力】	95.4%	● 6.51	● 3.19	96.8%	● 7.49	-	89.3%	● 0.00	● 14.3%	100.0%	● 3.13	17.9%	
41 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	95.4%	● 6.51	● 3.19	96.8%	● 7.49	-	89.3%	● 0.00	● 14.3%	100.0%	● 3.13	17.9%	
【対話力】	89.7%	● 3.24	● 1.41	83.9%	● -12.56	-	89.3%	● -7.14	● 3.6%	96.4%	● 12.05	14.3%	
40 相手の意見を丁寧に聞くことができる	89.7%	● 3.24	● 1.41	83.9%	● -12.56	-	89.3%	● -7.14	● 3.6%	96.4%	● 12.05	14.3%	
【表現力】	64.9%	● 7.54	● 3.54	72.6%	● 19.01	-	55.4%	● 1.79	● 25.0%	66.1%	● 2.01	19.6%	
47 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	74.7%	● 11.75	● 7.97	83.9%	● 26.73	-	64.3%	● 7.14	● 28.6%	75.0%	● 6.25	17.9%	
48 友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	55.2%	● 3.32	● -0.90	61.3%	● 11.29	-	46.4%	● -3.57	● 21.4%	57.1%	● -2.23	21.4%	
【共創力】	75.9%	● 25.24	● 7.20	74.2%	● 27.76	-	71.4%	● 25.00	● 32.1%	82.1%	● 19.64	25.0%	
42 共同作業だと、自分の力が発揮できる	75.9%	● 25.24	● 7.20	74.2%	● 27.76	-	71.4%	● 25.00	● 32.1%	82.1%	● 19.64	25.0%	
探究性に関わる自己認識	72.7%	● 18.02	● 6.72	79.0%	● 23.38	-	63.5%	● 7.89	● 29.9%	74.7%	● 14.94	33.2%	
【探びの意欲】	73.9%	● 10.98	● 6.12	77.4%	● 8.37	-	63.1%	● -5.95	● 25.0%	81.0%	● 12.20	27.4%	
36 家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する	70.1%	● 14.56	● -1.89	77.4%	● 9.56	-	64.3%	● -3.57	● 28.6%	67.9%	● 5.36	17.9%	
58 地域を対象とした課題探究学習に熱心に取り組んでいる	71.3%	● 14.47	● 19.13	74.2%	● 17.05	-	57.1%	● 0.00	● 28.6%	82.1%	● 16.52	35.7%	
64 学習を通して、自分がしたいことが増えている	80.5%	● 3.92	● 1.12	80.6%	● -1.50	-	67.9%	● -14.29	● 17.9%	92.9%	● 14.73	28.6%	
【情報活用能力】	78.7%	● 15.77	● 5.82	80.6%	● 16.36	-	73.2%	● 8.93	● 26.8%	82.1%	● 14.96	30.4%	
43 情報を、勉強したこと関連づけて理解できる	82.8%	● 16.09	● 3.20	83.9%	● 19.59	-	75.0%	● 10.71	● 25.0%	89.3%	● 14.29	28.6%	
44 勉強したものを実際に応用してみる	74.7%	● 15.45	● 8.44	77.4%	● 13.13	-	71.4%	● 7.14	● 28.6%	75.0%	● 15.63	32.1%	
【批判的思考力】	57.5%	● 32.78	● 8.27	74.2%	● 49.19	-	46.4%	● 21.43	● 39.3%	50.0%	● 18.75	42.9%	
39 複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	57.5%	● 32.78	● 8.27	74.2%	● 49.19	-	46.4%	● 21.43	● 39.3%	50.0%	● 18.75	42.9%	
【洞察能力】	80.5%	● 12.56	● 6.65	83.9%	● 19.59	-	71.4%	● 7.14	● 28.6%	85.7%	● 13.84	32.1%	
46 自分を客観的に理解することができる	80.5%	● 12.56	● 6.65	83.9%	● 19.59	-	71.4%	● 7.14	● 28.6%	85.7%	● 13.84	32.1%	
社会性に関わる自己認識	69.1%	● 12.27	● 5.71	72.6%	● 5.17	-	59.4%	● -8.04	● 21.4%	74.9%	● 19.90	38.7%	
【地域貢献意識】	65.9%	● 11.17	● 7.93	71.0%	● 3.11	-	57.1%	● -10.71	● 22.6%	69.0%	● 16.96	36.9%	
62 将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	55.2%	● 20.60	● 9.39	61.3%	● 18.43	-	50.0%	● 7.14	● 35.7%	53.6%	● 22.32	35.7%	
53 地域をよくするために、地域の問題に関わりたい	72.4%	● 6.98	● 11.45	77.4%	● -1.15	-	57.1%	● -21.43	● 17.9%	82.1%	● 13.39	42.9%	
55 将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい	70.1%	● 5.92	● 2.96	74.2%	● -7.95	-	64.3%	● -17.86	● 14.3%	71.4%	● 15.18	32.1%	
【社会参画意識】	72.4%	● 17.68	● 4.47	73.1%	● 2.88	-	65.5%	● -4.76	● 15.5%	78.6%	● 27.53	47.6%	
54 私が関わることで、社会状況が変えられるかもしれない	56.3%	● 26.69	● 4.96	58.1%	● 22.35	-	50.0%	● 14.29	● 32.1%	60.7%	● 35.71	60.7%	
59 地域や社会での問題やできごとに関心がある	75.9%	● 7.96	● 4.86	77.4%	● -4.72	-	71.4%	● -10.71	● 10.7%	78.6%	● 9.82	28.6%	
52 18歳選挙権を取得したら、選挙に行きたいと思う	85.1%	● 18.39	● 3.59	83.9%	● -8.99	-	75.0%	● -17.86	● 3.6%	96.4%	● 37.05	53.6%	
【グローバル意識】	70.1%	● 12.91	● 7.45	72.0%	● 10.14	-	63.1%	● 1.19	● 29.8%	75.0%	● 14.58	38.1%	
56 地域の課題と世界での課題は関連していると思う	81.6%	● 19.88	● 12.04	87.1%	● 15.67	-	71.4%	● 0.00	● 35.7%	85.7%	● 20.09	39.3%	
61 将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	74.7%	● 6.81	● 4.17	74.2%	● 2.76	-	75.0%	● 3.57	● 25.0%	75.0%	● -3.13	21.4%	
60 将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	54.0%	● 12.05	● 6.15	54.8%	● 11.98	-	42.9%	● 0.00	● 28.6%	64.3%	● 26.79	53.6%	
【持続可能意識】	67.8%	● 7.32	● 2.96	74.2%	● 4.55	-	51.8%	● -17.86	● 17.9%	76.8%	● 20.54	32.1%	
57 地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい	58.6%	● 9.24	● 1.53	61.3%	● -3.00	-	50.0%	● -14.29	● 17.9%	64.3%	● 20.54	28.6%	
65 自分の将来について明るい希望を持っている	77.0%	● 5.41	● 4.40	87.1%	● 12.10	-	53.6%	● -21.43	● 17.9%	89.3%	● 20.54	35.7%	

④ 生徒の行動実績 (資質・能力の発揮)



● 10pt以上の増加 ● 0~10ptの増加 ● 減少

	全校			1年生 (2021入学生)			2年生 (2020入学生)			3年生 (2019入学生)			
	全体 割合(%)	昨年度との差 差(pt)	他地域との差 差(pt)	学年 割合(%)	昨年入学生との差 差(pt)	一昨年入学生との差 差(pt)	学年 割合(%)	1年次との差 差(pt)	回答上昇者 割合(%)	学年 割合(%)	2年次との差 差(pt)	1年~3年 推移	回答上昇者 割合(%)
主体性に関わる行動	73.6%			80.6%	16.36	-	67.9%	3.57	33.9%	71.4%	13.62		32.1%
68 授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた	82.8%	9.92	6.45	87.1%	1.38	-	82.1%	-3.57	21.4%	78.6%	12.95		25.0%
71 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	64.4%	19.92	4.49	74.2%	31.34	-	53.6%	10.71	46.4%	64.3%	14.29		39.3%
協働性に関わる行動	74.1%			80.6%	11.00	-	60.7%	-8.93	19.6%	80.4%	11.61		28.8%
69 自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	77.0%	14.05	8.84	87.1%	19.24	-	60.7%	-7.14	21.4%	82.1%	10.27		28.6%
70 友人などから、意見やアドバイスを求められた	71.3%	7.07	0.59	74.2%	2.76	-	60.7%	-10.71	17.9%	78.6%	12.95		25.0%
探究性に関わる行動	70.1%			79.0%	23.68	-	62.5%	7.14	25.0%	67.9%	24.11		41.1%
72 授業で「なぜそうなるのか」と疑問を持って、考えたい調べたい	71.3%	21.88	2.87	80.6%	19.93	-	64.3%	3.57	25.0%	67.9%	17.86		42.9%
73 公式やきまり書き習う時、その根拠を自分で考えたい調べたい	69.0%	28.22	4.77	77.4%	27.42	-	60.7%	10.71	25.0%	67.9%	30.36		39.3%
社会性に関わる行動	65.9%			73.1%	13.59	-	58.3%	-1.19	22.6%	65.5%	10.27		27.4%
66 いま住んでいる地域の行事に参加した	59.8%	11.62	28.69	64.5%	14.52	-	57.1%	7.14	28.6%	57.1%	10.27		35.7%
67 地域社会などでボランティア活動に参加した	59.8%	11.62	31.18	71.0%	20.97	-	50.0%	0.00	25.0%	57.1%	13.39		21.4%
74 先生、保護者以外の地域の大人と、なげない会話を交わした	78.2%	4.09	17.90	83.9%	5.30	-	67.9%	-10.71	14.3%	82.1%	7.14		25.0%

⑤ 総合的な生徒の満足度

	全校			1年生 (2021入学生)			2年生 (2020入学生)			3年生 (2019入学生)			
	全体 割合(%)	昨年度との差 差(pt)	他地域との差 差(pt)	学年 割合(%)	昨年入学生との差 差(pt)	一昨年入学生との差 差(pt)	学年 割合(%)	1年次との差 差(pt)	回答上昇者 割合(%)	学年 割合(%)	2年次との差 差(pt)	1年~3年 推移	回答上昇者 割合(%)
75 今の生活全般に対する満足度	63.2%	2.72	-1.01	74.2%	9.91	-	46.4%	-17.86	28.6%	67.9%	-0.89		42.9%
63 この学校に入ってよかったと思う	80.5%	-4.73	-5.59	83.9%	-8.99	-	67.9%	-25.00	7.1%	89.3%	1.79		10.7%

補足・追加設問

	全校			1年生 (2021入学生)			2年生 (2020入学生)			3年生 (2019入学生)			
	全体 割合(%)	昨年度との差 差(pt)	他地域との差 差(pt)	学年 割合(%)	昨年入学生との差 差(pt)	一昨年入学生との差 差(pt)	学年 割合(%)	1年次との差 差(pt)	回答上昇者 割合(%)	学年 割合(%)	2年次との差 差(pt)	1年~3年 推移	回答上昇者 割合(%)
76 国際社会の課題解決に貢献したい	56.3%	18.05	-1.02	71.0%	24.54	-	42.9%	-3.57	17.9%	53.6%	19.20		28.6%
77 また世の中になく新しい技術やサービスを生み出してみたい	52.9%	14.60	-4.97	67.7%	24.88	-	39.3%	-3.57	21.4%	50.0%	12.50		32.1%
78 客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることができる	55.2%	28.01	6.34	67.7%	32.03	-	46.4%	10.71	17.9%	50.0%	28.13		42.9%

資料2 防災活動や地域課題解決学習に関する生徒アンケート

このアンケートは、皆さんが防災や総合的な探究の時間などに取り組むことをとおして、自分の力がどれだけ身に付いたのかについて答えてもらうためのものです。問1から問10の各質問をよく読んで、当てはまるものを「4」～「1」の数字から選んで、数字に「0」を付けてください。

また、なぜその数字を選んだのかについて、その理由を「理由」の枠の中に書いてください。
なお、問10は、例を参考にして記入してください。

回答する数字の意味は、以下のようになっています。

〔4〕：強く思う 〔3〕：やや思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

【質問項目】

1 あなたは、学習活動をとおして、計画を立てて取り組み、それを実践する力が身に付いたと思いますか。

〔4〕：強く思う 〔3〕：やや思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

その理由：

2 あなたは、学習活動をとおして、地域の魅力や良さを理解する力が身に付いたと思いますか。

〔4〕：強く思う 〔3〕：やや思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

その理由：

3 あなたは、学習活動をとおして、地域のために活動できる力が身に付いたと思いますか。

〔4〕：強く思う 〔3〕：やや思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

その理由：

4 あなたは、学習活動をとおして、地域の人々の思いや願いを理解する力が身に付いたと思いますか。

〔4〕：強く思う 〔3〕：やや思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

その理由：

次のページに進んでください。

5 あなたは、学習活動をとおして、地域の魅力や良さを、他の地域の人に自分の言葉で伝えることができる力が身に付いたと思いますか。

〔4〕：強くそう思う 〔3〕：ややそう思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

その理由：

6 あなたは、学習活動をとおした聞き取りや情報収集により、課題が存在する背景を考え、解決に向けた方法を考え出す力が身に付いたと思いますか。

〔4〕：強くそう思う 〔3〕：ややそう思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

その理由：

7 あなたは、学習活動をとおして、自分とは異なる立場の人（幼児や児童・高齢者・自分とは異なる性別・外国人など）のことを意識して、課題解決策を提案する力が身に付いたと思いますか。

〔4〕：強くそう思う 〔3〕：ややそう思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

その理由：

8 あなたは、学習活動をとおして地域の厳しい現実を把握し、それをよい方向に変えようと解決策の提案や実践を行う力が身に付いたと思いますか。

〔4〕：強くそう思う 〔3〕：ややそう思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

その理由：

9 あなたは、学習活動をとおして、高校卒業後も何らかの形で地域の課題解決に関わる力が身に付いたと思いますか。

〔4〕：強くそう思う 〔3〕：ややそう思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

その理由：



質問は以上です。ご協力ありがとうございました

資料3-1 防災活動や地域課題解決学習に関する生徒アンケート（9月実施分・1月実施分 数値のみ）

防災活動や地域課題解決学習に関する生徒アンケート（9月実施分・1月実施分 数値のみ）

指定事業効果測定アンケート		（生徒対象 R3_9月）							（生徒対象 R4_1月）					
問	設問	学年	4	3	肯定計	2	1	否定計	4	3	肯定計	2	1	否定計
問1	あなたは、学習活動をととして、計画を立てて取組み、それを実践する力が身に付いたと思いますか。	1年	27.3%	51.5%	78.8%	21.2%	0.0%	21.2%	18.8%	53.1%	71.9%	28.1%	0.0%	28.1%
		2年	21.4%	53.6%	75.0%	25.0%	0.0%	25.0%	17.9%	64.3%	82.1%	17.9%	0.0%	17.9%
		3年	18.5%	66.7%	85.2%	14.8%	0.0%	14.8%	35.7%	57.1%	92.9%	7.1%	0.0%	7.1%
問2	あなたは、学習活動をととして、地域の魅力や良さを理解する力が身に付いたと思いますか。	1年	30.3%	54.5%	84.8%	15.2%	0.0%	15.2%	34.4%	28.1%	62.5%	34.4%	3.1%	37.5%
		2年	21.4%	60.7%	82.1%	17.9%	0.0%	17.9%	28.6%	57.1%	85.7%	14.3%	0.0%	14.3%
		3年	22.2%	66.7%	88.9%	11.1%	0.0%	11.1%	39.3%	53.6%	92.9%	7.1%	0.0%	7.1%
問3	あなたは、学習活動をととして、地域のために活動できる力が身に付いたと思いますか。	1年	36.4%	48.5%	84.8%	15.2%	0.0%	15.2%	28.1%	37.5%	65.6%	28.1%	6.3%	34.4%
		2年	25.0%	57.1%	82.1%	17.9%	0.0%	17.9%	17.9%	50.0%	67.9%	28.6%	3.6%	32.1%
		3年	22.2%	66.7%	88.9%	11.1%	0.0%	11.1%	32.1%	53.6%	85.7%	14.3%	0.0%	14.3%
問4	あなたは、学習活動をととして、地域の人々の思いや願いを理解する力が身に付いたと思いますか。	1年	33.3%	54.5%	87.9%	12.1%	0.0%	12.1%	16.1%	41.9%	58.1%	35.5%	6.5%	41.9%
		2年	21.4%	64.3%	85.7%	14.3%	0.0%	14.3%	21.4%	50.0%	71.4%	28.6%	0.0%	28.6%
		3年	22.2%	74.1%	96.3%	3.7%	0.0%	3.7%	28.6%	60.7%	89.3%	10.7%	0.0%	10.7%
問5	あなたは、学習活動をととして、地域の魅力や良さを、他の地域の人に自分の言葉で伝えることができる力が身に付いたと思いますか。	1年	28.1%	50.0%	78.1%	18.8%	3.1%	21.9%	22.6%	32.3%	54.8%	35.5%	9.7%	45.2%
		2年	17.9%	50.0%	67.9%	28.6%	3.6%	32.1%	17.9%	39.3%	57.1%	39.3%	3.6%	42.9%
		3年	18.5%	51.9%	70.4%	29.6%	0.0%	29.6%	28.6%	50.0%	78.6%	21.4%	0.0%	21.4%
問6	あなたは、学習活動をととして聞き取りや情報収集により、課題が存在する背景を考え、解決に向けた方法を考え出す力が身に付いたと思いますか。	1年	21.9%	56.3%	78.1%	18.8%	3.1%	21.9%	25.8%	38.7%	64.5%	32.3%	3.2%	35.5%
		2年	25.0%	46.4%	71.4%	25.0%	3.6%	28.6%	7.1%	64.3%	71.4%	28.6%	0.0%	28.6%
		3年	22.2%	63.0%	85.2%	14.8%	0.0%	14.8%	21.4%	71.4%	92.9%	7.1%	0.0%	7.1%
問7	あなたは、学習活動をととして、自分とは異なる立場の人（幼児や児童・高齢者・自分とは異なる性別・外国人など）のことを意識して、課題解決策を提案する力が身に付いたと思いますか。	1年	42.4%	45.5%	87.9%	12.1%	0.0%	12.1%	25.8%	32.3%	58.1%	41.9%	0.0%	41.9%
		2年	32.1%	39.3%	71.4%	25.0%	3.6%	28.6%	25.0%	46.4%	71.4%	25.0%	3.6%	28.6%
		3年	22.2%	66.7%	88.9%	11.1%	0.0%	11.1%	25.0%	64.3%	89.3%	7.1%	3.6%	10.7%
問8	あなたは、学習活動をととして地域の厳しい現実を把握し、それをよい方向に変えようとする解決策の提案や実践を行う力が身に付いたと思いますか。	1年	18.2%	54.5%	72.7%	27.3%	0.0%	27.3%	21.9%	31.3%	53.1%	40.6%	6.3%	46.9%
		2年	25.0%	35.7%	60.7%	35.7%	3.6%	39.3%	17.9%	53.6%	71.4%	28.6%	0.0%	28.6%
		3年	14.8%	74.1%	88.9%	11.1%	0.0%	11.1%	32.1%	57.1%	89.3%	10.7%	0.0%	10.7%
問9	あなたは、学習活動をととして、高校卒業後も何らかの形で地域の課題解決にかかわる力が身に付いたと思いますか。	1年	30.3%	54.5%	84.8%	15.2%	0.0%	15.2%	13.3%	46.7%	60.0%	30.0%	10.0%	40.0%
		2年	21.4%	60.7%	82.1%	17.9%	0.0%	17.9%	14.3%	39.3%	53.6%	46.4%	0.0%	46.4%
		3年	14.8%	70.4%	85.2%	14.8%	0.0%	14.8%	32.1%	60.7%	92.9%	7.1%	0.0%	7.1%

選択肢：4「強く思う」・3「やや思う」・2「あまりそう思わない」・1「まったくそう思わない」

資料3-2 防災活動や地域課題解決学習に関する生徒アンケート（令和3年1月実施分・令和4年1月実施分 数値のみ）

防災活動や地域課題解決学習に関する生徒アンケート（令和3年1月実施分・令和4年1月実施分 数値のみ）

指定事業効果測定アンケート		（生徒対象 R3_1月）							（生徒対象 R4_1月）					
問	設問	学年	4	3	肯定計	2	1	否定計	4	3	肯定計	2	1	否定計
問1	あなたは、学習活動をととして、計画を立てて取組み、それを実践する力が身に付いたと思いますか。	1年	25.0%	53.6%	78.6%	21.4%	0.0%	21.4%	18.8%	53.1%	71.9%	28.1%	0.0%	28.1%
		2年	12.9%	48.4%	61.3%	32.3%	6.5%	38.7%	17.9%	64.3%	82.1%	17.9%	0.0%	17.9%
		3年	20.0%	50.0%	70.0%	20.0%	10.0%	30.0%	35.7%	57.1%	92.9%	7.1%	0.0%	7.1%
問2	あなたは、学習活動をととして、地域の魅力や良さを理解する力が身に付いたと思いますか。	1年	35.7%	53.6%	89.3%	10.7%	0.0%	10.7%	34.4%	28.1%	62.5%	34.4%	3.1%	37.5%
		2年	25.8%	54.8%	80.6%	19.4%	0.0%	19.4%	28.6%	57.1%	85.7%	14.3%	0.0%	14.3%
		3年	15.0%	60.0%	75.0%	15.0%	10.0%	25.0%	39.3%	53.6%	92.9%	7.1%	0.0%	7.1%
問3	あなたは、学習活動をととして、地域のために活動できる力が身に付いたと思いますか。	1年	32.1%	39.3%	71.4%	28.6%	0.0%	28.6%	28.1%	37.5%	65.6%	28.1%	6.3%	34.4%
		2年	25.8%	54.8%	80.6%	19.4%	0.0%	19.4%	17.9%	50.0%	67.9%	28.6%	3.6%	32.1%
		3年	25.0%	45.0%	70.0%	25.0%	5.0%	30.0%	32.1%	53.6%	85.7%	14.3%	0.0%	14.3%
問4	あなたは、学習活動をととして、地域の人々の思いや願いを理解する力が身に付いたと思いますか。	1年	28.6%	28.6%	57.1%	42.9%	0.0%	42.9%	16.1%	41.9%	58.1%	35.5%	6.5%	41.9%
		2年	19.4%	48.4%	67.7%	32.3%	0.0%	32.3%	21.4%	50.0%	71.4%	28.6%	0.0%	28.6%
		3年	10.0%	50.0%	60.0%	30.0%	10.0%	40.0%	28.6%	60.7%	89.3%	10.7%	0.0%	10.7%
問5	あなたは、学習活動をととして、地域の魅力や良さを、他の地域の人に自分の言葉で伝えることができる力が身に付いたと思いますか。	1年	25.0%	32.1%	57.1%	35.7%	7.1%	42.9%	22.6%	32.3%	54.8%	35.5%	9.7%	45.2%
		2年	16.1%	29.0%	45.2%	51.6%	3.2%	54.8%	17.9%	39.3%	57.1%	39.3%	3.6%	42.9%
		3年	20.0%	35.0%	55.0%	40.0%	5.0%	45.0%	28.6%	50.0%	78.6%	21.4%	0.0%	21.4%
問6	あなたは、学習活動をととして聞き取りや情報収集により、課題が存在する背景を考え、解決に向けた方法を考え出す力が身に付いたと思いますか。	1年	25.0%	57.1%	82.1%	17.9%	0.0%	17.9%	25.8%	38.7%	64.5%	32.3%	3.2%	35.5%
		2年	22.6%	54.8%	77.4%	22.6%	0.0%	22.6%	7.1%	64.3%	71.4%	28.6%	0.0%	28.6%
		3年	15.0%	35.0%	50.0%	40.0%	10.0%	50.0%	21.4%	71.4%	92.9%	7.1%	0.0%	7.1%
問7	あなたは、学習活動をととして、自分とは異なる立場の人（幼児や児童・高齢者・自分とは異なる性別・外国人など）のことを意識して、課題解決策を提案する力が身に付いたと思いますか。	1年	25.0%	53.6%	78.6%	17.9%	3.6%	21.4%	25.8%	32.3%	58.1%	41.9%	0.0%	41.9%
		2年	25.8%	51.6%	77.4%	22.6%	0.0%	22.6%	25.0%	46.4%	71.4%	25.0%	3.6%	28.6%
		3年	15.0%	40.0%	55.0%	35.0%	10.0%	45.0%	25.0%	64.3%	89.3%	7.1%	3.6%	10.7%
問8	あなたは、学習活動をととして地域の厳しい現実を把握し、それをよい方向に変えようとする解決策の提案や実践を行う力が身に付いたと思いますか。	1年	14.3%	32.1%	46.4%	46.4%	7.1%	53.6%	21.9%	31.3%	53.1%	40.6%	6.3%	46.9%
		2年	16.1%	54.8%	71.0%	29.0%	0.0%	29.0%	17.9%	53.6%	71.4%	28.6%	0.0%	28.6%
		3年	10.0%	45.0%	55.0%	30.0%	15.0%	45.0%	32.1%	57.1%	89.3%	10.7%	0.0%	10.7%
問9	あなたは、学習活動をととして、高校卒業後も何らかの形で地域の課題解決にかかわる力が身に付いたと思いますか。	1年	25.0%	39.3%	64.3%	32.1%	3.6%	35.7%	13.3%	46.7%	60.0%	30.0%	10.0%	40.0%
		2年	19.4%	51.6%	71.0%	22.6%	6.5%	29.0%	14.3%	39.3%	53.6%	46.4%	0.0%	46.4%
		3年	10.0%	45.0%	55.0%	30.0%	15.0%	45.0%	32.1%	60.7%	92.9%	7.1%	0.0%	7.1%

選択肢：4「強く思う」・3「やや思う」・2「あまりそう思わない」・1「まったくそう思わない」

資料4 肯定的評価における記述のカテゴリー別の分類（抜粋）

【1年生】

カテゴリー	主な記述内容
経験・行動	<p>計画は必要 総合の時間計画を練ってディベートを行った 学年混同で訓練をしたとき自分たちで計画を立てたりしたから 勉強が苦手なため、1日3時間の本読みをするなどの工夫をしてみたことがあった 地域の人と協力し訓練しているから たくさん知る機会があったから 地域の人のおよさを目にすることができた 小規模サミットなどで地域の魅力について紹介できた 避難所の清掃などで地域のための活動ができた ボランティア活動に積極的に参加した サミット等様々な活動で発信しているから</p>

カテゴリー	主な記述内容
成長実感	<p>積極的に意見を言えるようになった 計画を立てて取り組むことができた 力がついて役に立つと思うから 浜町さん等の取組等を通して考えることができた 地域の課題解決に関われる力が身に付いた 以前よりも課題解決に必要な情報収集やインタビューができ、より良い意見を出せたと思ったから 課題の解決ができるようになってきた 地域学で身に付いた 問題解決策を提案する力が身に付いたと思う</p>

カテゴリー	主な記述内容
思考活動	<p>論文などで分かりやすく説明するためにはどうするかよく考えられた 細かく情報収集し、課題が存在する理由も考えられるようにしているから 自分もLGBTQについてよく考えるから</p>

カテゴリー	主な記述内容
気づき・理解	<p>地域の魅力を感じた 周りに同じ年代の人達しかいなかった 課題解決は大切 厳しい現実があることを知ったから</p>

カテゴリー	主な記述内容
意欲向上	<p>今よりいい未来にしたいと思っていた</p>

【2年生】

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
経験・行動	<p>計画を立てて取り組めた</p> <p>検定に向けての勉強で計画をきちんとたてた</p> <p>発表でもしっかり考え、意見も発表した</p> <p>地域学で身に付いた</p>

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
成長実感	<p>先生と話し合っ準備をし、考えて実践できた。</p> <p>褒められたから</p> <p>よい方向に変えようとする事ができた</p> <p>以前よりも課題解決に必要な情報収集やインタビューができ、より良い意見を出せたと思ったから</p> <p>自ら提案することが増えた</p> <p>役場の人に褒められたから</p> <p>防災で考えたことを生かせると思った</p> <p>授業の中でその力がついていったから</p> <p>なぜ課題が提示されているかについてネットや情報収集で理解でき、その解決方法をある程度自分で考えられたため</p> <p>自分で考えて案を出す事ができた</p>

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
思考活動	<p>どうすれば幸せになれるか考えたりした</p> <p>いい方向にするために案が出たから</p>

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
気づき・理解	<p>魅力をさらに知ることができたから</p> <p>現状を知ってさらに知ることができた</p> <p>調べて情報収集できた</p> <p>対象にしている人が高齢者や子どもだったのでできた</p> <p>その人たちが暮らしやすいようにはしていきたい</p> <p>解決策を考えた</p> <p>地域の問題を知ることができた</p> <p>色々なことを学びたいと思った</p> <p>課題の解決ができるようになってきた</p>

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
意欲向上	<p>自ら提案することが増えたから</p> <p>高齢者の方たちを意識して考えられるように少しなったから</p> <p>これからもボランティアなどしていく</p>

【3年生】

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
経験・行動	<p>プレゼンを計画どおりに進められたから 総合の授業で学んだから 班の人と協力したりして、自分でも目標に向けて取り組めた 前よりもスムーズに進めることができた 計画を立てて実践できた 総合で他の市町村を調べて、自分の地域と一緒に考えることができた グループで見つけそれに取り組んだ たくさんの人とコミュニケーションをとることができた 地域に住むデメリットを解決するために活動してきたから 地域学や様々な防災活動をしてきたから アンケートを作成し、まじめに地域の人々の思いについて考えた 地域の人が望む暮らしを実現させていかないといけないから 様々な防災で地域の人と関わられた たくさん調べたり、アンケートをとったりしたから 前の課題と比べたり、アンケートをとったりしてよい方向に変えた</p>

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
成長実感	<p>計画を取組、最後までやりきることが少し多くなった 期限までに余裕をもって仕上げる力を身に付けることができた 人の考えることは理解することが前までは苦手だったが今は多少分かってきた 発表までの準備期間が短かったから計画を立てるようになった 調べ物をする、スライドをつくるの順序をしっかり計画できた</p>

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
思考活動	<p>昔からこの地域の魅力を知っているから 地域の良さに目を向けて考えることがあったから 黒潮町の良さが分かった マイナスもとらえ方を変えてプラスにできたから 地域のために何をしたらいいか考えた 黒潮町ならどう生かすことができるか考えた 地域の人々の意見を聞いて案を考えていたから どうすればよい解決に進むのかなど考えられるようになった ボランティアに参加したいと思ったから</p>

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
気づき・理解	<p>計画的に実践できるようになった 計画を立てて取り組めた 発表までに何をしないといけないか計画することが増えた 計画の大切さを知ったから 総合をやっていく中で魅力を感じてきたから 地域の良さを知れた 前から地域の良さは知っていたので前より知ることができた インタビューなどを通して再確認することができた 身近にあって気付いてなかっただけということに気づくことができた 地域の人々の意見を聞く機会がなく臆測で解決案を考えたら しっかりと情報収集できたし、きちんと考えを見つけたから 人のことを考える力がついたと思う 自分で計画を取組、実践ができたから流れが分かった</p>

カテゴリー	主 な 記 述 内 容
意欲向上	<p>少しでも誰かの役に立ちたいと思えるようになった 地域が少しでも綺麗になるように活動を続けたいと思う 提案できるほどではないが意識している 実践力はまだないが考えようとしている</p>

資料5 大方高校の地域貢献活動に関する地域住民アンケート



このアンケートは、以下の目的に基づき地域の皆様のご協力をお願いするものです。ご面倒をおかけしますが、生徒の成長や取組の充実に向けて、皆様のご協力をお願いいたします。

目的：1 大方高校の生徒による地域防災の取組や地域課題解決活動、地域行事への参加などの学習活動やボランティア活動について、地域の皆さんからの評価をいただき取組評価を確認する。
2 生徒の取組をより充実させるために、学校の取組を確認したり改善したりするための資料とする。

【注意事項】

◎回答方法：質問は、以下の（ ）問です。各問について当てはまると思う答えを、「4」～「1」のから選び、選んだ数字を[別紙の回答用紙]にご記入ください。

[4]：強く思う [3]：やや思う [2]：あまりそう思わない [1]：まったくそう思わない

◎返信方法：同封の封筒（大方高校の住所・学校名を記載している封筒）に回答用紙を入れ、郵送してください。直接学校に届けていただいてもかまいません。

【質問項目】

1 生徒たちが、防災や地域課題解決のための取組を行っていることを知っている。

[4]：強く思う [3]：やや思う [2]：あまりそう思わない [1]：まったくそう思わない

2 生徒たちが行う防災の取組は、黒潮町が掲げる「犠牲者0」を目指す思想の実現につながるものだと思う。

[4]：強く思う [3]：やや思う [2]：あまりそう思わない [1]：まったくそう思わない

3 生徒たちが防災の取組を行うことで、自分も命を守るために避難しなければならないと意識するようになった。

[4]：強く思う [3]：やや思う [2]：あまりそう思わない [1]：まったくそう思わない

4 生徒たちの取組は、地域の防災意識の向上や課題解決に役立っていると思う。

[4]：強く思う [3]：やや思う [2]：あまりそう思わない [1]：まったくそう思わない

5 生徒たちの取組は、小学生や中学生の取組に刺激を与えたり、参考になるものであると思う。

〔4〕：強くそう思う 〔3〕：ややそう思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

6 生徒たちが取り組む活動は、地域住民が高校の存在を意識するものになっている。

〔4〕：強くそう思う 〔3〕：ややそう思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

7 生徒たちの取組は、今後も継続させてほしいと思う。

〔4〕：強くそう思う 〔3〕：ややそう思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

8 生徒たちが行った取組を発表する際は、子どもや孫と一緒に発表を聞きに行きたいと思う。

〔4〕：強くそう思う 〔3〕：ややそう思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

9 生徒たちが行う取組に対して、地域住民は積極的に協力していると思う。

〔4〕：強くそう思う 〔3〕：ややそう思う 〔2〕：あまりそう思わない 〔1〕：まったくそう思わない

10 大方高校の取組について、提案や意見、感想などがあれば自由にお書きください。



質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

大方高校は、地域防災や地域課題解決の取組をさらに充実させるとともに、活動をとおして生徒の意欲を引き出し、力を引き出すことをとおして未来の「地域の創り手」人材の育成※（下記を参照ください。）を目指します。

今後とも皆様のご協力とご理解をよろしくお願いいたします。

※ 未来の「地域の創り手」人材とは、高校や大学等を卒業して地元に住み、地元の活性化に貢献する者・一度は別の地域で生活するがUターンして地元の活性化に貢献する者・地元には戻ってこないが居住地で地元への支援（ふるさと納税・帰省時のイベント等への参加や協力など）をしたり思いをもって生活（地元のニュースへの反応・住んでいる地域での地元の良さの宣伝等）する者を意味しています。

資料6 大方高校の地域貢献活動に関する地域住民アンケート

防災活動や地域課題解決学習に関する地域住民アンケート（令和3年1月実施分・令和4年1月実施分 数値のみ）

指定事業効果測定アンケート		（地域住民対象 R3_1月）					（地域住民対象 R4_1月）						
問	設問	4	3	肯定計	2	1	否定計	4	3	肯定計	2	1	否定計
問1	生徒たちが、防災や地域課題解決のための取組を行っていることを知っている。	43.8%	47.2%	91.0%	6.7%	2.2%	9.0%	42.9%	48.4%	91.2%	7.1%	1.6%	8.8%
問2	生徒たちが行う防災の取組は、黒潮町が掲げる「犠牲者0」を目指す思想の実現につながるものだと思う。	52.8%	43.2%	96.0%	4.0%	0.0%	4.0%	51.6%	42.9%	94.5%	5.5%	0.0%	5.5%
問3	生徒たちが防災の取組を行うことで、自分も命を守るために避難しなければならないと意識するようになった。	46.6%	47.7%	94.3%	5.7%	0.0%	5.7%	44.5%	47.3%	91.8%	7.7%	0.5%	8.2%
問4	生徒たちの取組は、地域の防災意識の向上や課題解決に役立っていると思う。	54.6%	43.1%	97.7%	2.3%	0.0%	2.3%	47.3%	45.6%	92.9%	6.0%	1.1%	7.1%
問5	生徒たちの取組は、小学生や中学生の取組に刺激を与えたり、参考になるものであると思う。	50.0%	45.4%	95.4%	4.6%	0.0%	4.6%	51.1%	43.4%	94.5%	4.9%	0.5%	5.5%
問6	生徒たちが取り組む活動は、地域住民が高校の存在を意識するものになっている。	37.9%	50.6%	88.5%	11.5%	0.0%	11.5%	41.2%	45.1%	86.3%	12.6%	1.1%	13.7%
問7	生徒たちの取組は、今後も継続させてほしいと思う。	79.0%	19.3%	98.3%	1.7%	0.0%	1.7%	69.2%	29.1%	98.4%	1.6%	0.0%	1.6%
問8	生徒たちが行った取組を発表する際は、子どもや孫と一緒に発表を聞きに行きたいと思う。	23.6%	64.4%	87.9%	10.9%	1.1%	12.1%	31.9%	56.0%	87.9%	12.1%	0.0%	12.1%
問9	生徒たちが行う取組に対して、地域住民は積極的に協力していると思う。	12.6%	62.3%	74.9%	25.1%	0.0%	25.1%	16.5%	58.8%	75.3%	24.2%	0.5%	24.7%

選択肢：4「強く思う」・3「やや思う」・2「あまりそう思わない」・1「まったく思わない」

資料7 地域住民の方からのコメント

- 大人が話すより、高校生が話してくれた方が子どもたちに届きやすいと思う。大人も高齢者も同じですね。
- あまり大方高校の取組についてくわしく知りません。子どもが行っていたらもう少し知ることができたかもしれない。
- 正直大方高校の取組をよく知りません。コロナ渦というのもありますが、防災に関しての意識、知識の向上はとても大切だと思うので発表の場があれば見に行きたい。
- 地元ケーブルテレビで放送のあったにしきの公園への避難訓練の様子を見たことくらいしか大方高校の取組について知りませんでした。一生懸命生徒さんたちが取組をしているのでしたら、住民の方々によりよく知ってもらえるようm a cや住民の方がたくさん利用する所へ掲示するなどもっと発信してはどうでしょうか？
- 大方高校の取組を知らないため、質問の答えがほぼ2になってしまいました。すみません。
- すいません。何をしているか分からないので、あまり回答できませんでした。
- みなさんが取り組んでのをテレビなどで見て、これからも頑張って地域を引っ張ってほしいと思います。みなさん、ありがとうございます。
- 取組の内容を100%知りえていない。せっかくの取組でとても良いことだと思うので、有意義な物にできるよう発信してほしいです。
- 大方高校の取組が小中学校の生徒の目にふれる機会があるのかがまず私達には分からないので返答に困る。防災の取組も詳しくは知らないで、知らない人に対しては2～9の問題は答えようがない。もう少しアンケートの問い方について検討すべきかなと思います。
- 取組については良いと思うが、どのような活動を行っているのか今一つはっきり分からないので評価しかねる。どのような活動を行い、具体的に活動を行った結果について地域住民に理解してもらう取組があればいいのでは（広報、地元ケーブルテレビなど）。

- いつ起こるか分からない地震、津波なので、日頃からの備えや訓練など大切なことであると思うので、これからも地域とのつながりを大切に取組を続けてもらいたいです。
- 引き続き頑張ってください。
- これからの黒潮町を守り、活性化していくためにも、生徒の皆様の取組は必要不可欠であると考えます。自由な発想と行動力で、これからも取り組んでいただきたいと思います。
- コロナ渦での活動なので、色々と制約もあり、思うような活動が展開できていないと思いますが、行政側も積極的に連携させていただくべきだと考えますので、引き続きよろしくお願いします！
- 学業との調整等、大変と思いますが引き続きの取組を期待します。
- 活動の内容を進捗含む周知方法がどういったものがあるのか知りたかった。
- 早咲地区のタワーの清掃活動や要援護者の避難訓練など、ご協力に感謝しています。もっと地域住民も参加して活動できたらいいですね。
- 地域への提案をこれからもしていただけたら、地区住民も動きやすくなると思います。
- 地元自治会との更なるつながりを求める。
- これからも頑張ってください。
- 避難タワーの清掃など大方高校の皆様にご手伝って頂き非常に助かっています。皆様が一生涯懸命に取り組んでいる姿が職員にとって励みになり、また地域住民の防災意識の向上につながっていると思っています。本当に感謝しています、ありがとう！！





文部科学省指定事業

令和3年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 地域魅力化型
研究開発報告書 第2年次

令和4年3月発行

発行者：高知県立大方高等学校

〒789-1931 高知県幡多郡黒潮町入野5507

TEL：0880-43-1079 FAX：0880-43-1379

E-mail：ogata-h@kochinet.ed.jp

夢見るちからある限り

たゆまぬ努力ある限り

